

令和2年度

# 教育事務に関する 点検及び評価報告書

《平成31年度（令和元年度）事務事業分》



令和2年11月

七戸町教育委員会

## はじめに

地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部改正により、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、その報告書を議会に提出するとともに、公表することが義務づけられました。また、その際、客観性を確保する観点から、教育委員会以外の学識経験者による知見の活用を図ることになりました。

七戸町教育委員会では、効果的な教育行政の推進に資するとともに、町民の皆様への説明責任を果たすため、学識経験者からなる「七戸町教育評価審議会」からご意見等をいただきながら、教育委員会の事務の管理・執行状況について点検及び評価を行い、報告書を作成いたしました。

この結果をこれからの施策等に反映させ、教育施策を着実に推進していきたいと考えておりますので、町民の皆様の一層のご理解とご協力をお願いいたします。

### 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抄）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

- 第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務  
その他教育長の権限に属する事務（同条第3項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。
- 2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

# 目 次

I	点検・評価の概要	1
II	平成31年度七戸町教育施策の基本方針	5
III	平成31年度（令和元年度）教育委員会の活動状況について	18
IV	平成31年度（令和元年度）教育委員会の事務事業に対する教育評価審議会委員からの意見	19
V	平成31年度（令和元年度）施策別主要事業一覧	21
	各事業評価シート	22～86

# I 点検・評価の概要

## 1 点検・評価の対象

### (1) 点検・評価の対象

七戸町教育施策の方針に基づいて実施する学校教育、社会教育、社会体育、文化財保護と芸術文化振興等の各分野を構成する主な事務事業を対象に点検・評価を行った。

### (2) 点検・評価の方法

各分野、施策に属する事務事業を点検・評価するため、事務事業ごとに事業費、目的、事業効果等を整理し、その結果に基づいて事業評価及び今後の取組等について記載した。

### (3) 学識経験者の知見の活用

教育委員会が実施した点検・評価の客観性を確保するため、教育評価審議会を開催し、教育に関し学識経験を有する者（教育評価審議会委員3人）から意見をいただき、点検・評価の実施と報告書の作成を行った。

## 2 点検・評価作業の経緯

令和2年	8月28日	第1回教育評価審議会
	9月18日	第2回教育評価審議会
	10月23日	第3回教育評価審議会
	〃	教育評価審議会が平成31年度（令和元年度）教育委員会の事務事業に対する意見書を提出
	11月17日	文教厚生常任委員会において本報告書（案）説明
	11月26日	教育委員会定例会において本報告書（案）を承認
	11月30日	町議会定例会に本報告書を提出

## 3 評価報告書の公表

七戸町ホームページに掲載し公表する。

## 4 点検・評価に際し、委嘱した学識経験を有する者

七戸町教育評価審議会

委員 富浦 一行

委員 澤田 良子

委員 中村 美知代

5 前年度（平成30年度事務事業分）の点検・評価における教育評価審議会委員からの意見に対する説明

教育評価審議会委員からの意見（抜粋）	所管課回答
<p>1 （特別支援教育の対応について）</p> <p>特別支援教育に関する事業について、特別支援教育支援員配置事業等、適切に対応されているが、支援を必要とする児童生徒が増加傾向にあり、その態様や支援方法も多様化しており、円滑な事務事業の遂行が必要である。</p> <p>このため、支援員の増員だけでなく、教育委員会・学校教員・支援員の役割と連携体制の在り方について検討し、より効果的・効率的な対応を行ってほしい。</p>	<p>（学務課）</p> <p>児童生徒数は年々減少しているが、特別支援学級在籍児童生徒数や教育支援委員会対象児童生徒数は増加傾向にある。</p> <p>教育委員会の役割は、各校の状況を考慮し支援員を適切に配置することであり、学校長の役割は、支援員を指揮監督することであり、支援員の役割は、対象児童生徒に適切な支援や介助を行うことである。</p> <p>三者の連携については、教育委員会が中心となり良好な関係を構築し、より充実した支援や介助が実施されるよう体制づくりに努めていく。</p>
<p>2 （学校教育における ICT 活用能力の育成について）</p> <p>学校教育方針の「ICT 活用能力の育成」について、「ICT」の表記の仕方を理解しやすく工夫してほしい。</p> <p>また、子どもは、日常的にコンピュータやインターネット等を使用しているが、発達段階におけるプログラミング教育には、論理的に考えていく力が求められているため、問題解決に必要な論理的思考能力を育成することに注力してほしい。</p> <p>※ ICT（Information and Communication Technology）は「情報通信技術」の略。</p>	<p>（学務課）</p> <p>現在、GIGA スクール構想に基づいた学校のネットワーク環境及び児童生徒一人一台端末整備を進めている。</p> <p>今後は、端末を活用したプログラミング学習・オンライン上での共同作業・Teams を活用したオンライン授業など様々な場面での ICT の活用を検討している。</p> <p>また、校務用 PC の更新も完了し、校務系・学習系の両面から教育現場の IOT 化を進めています。</p> <p>※ ICT（Information and Communication Technology、「情報通信技術」の略。）</p> <p>※ IOT（Internet of Things、「モノのインターネット」→様々なモノがインターネットに接続され、情報交換することにより相互に制御する仕組みのこと。）</p>

<p>3 (国際交流推進事業について)</p> <p>国際交流推進事業は、子どもたちの国際的な興味・関心を高めることを目的とする事業ではあるが、同時に英語学習も重要な目的であることから、英語学習を目的とした事業と合理化できないか検討してほしい。</p>	<p>(生涯学習課)</p> <p>国際交流事業は生徒が国際的な感覚を身に付けるなど一定の成果は認められるが、令和2年度に小学校3年生から英語の授業が導入されることもあり、英語学習へ力を入れる必要がある。</p> <p>限られた財源と時間を有効に活用し、子どもたちが受験や進学に必要な英語に対する苦手意識を克服することを目的に異文化交流事業へ一本化し、英語を楽しく学ぶイングリッシュデイ・イングリッシュキャンプの充実を図りながら、英語圏との交流についても慎重に検討していきたい。</p>
<p>4 (子ども会の育成支援について)</p> <p>少子化による子ども会活動の低下が子どもの健全な育成に影響しないか心配される。子ども会活動を継続していくために支援方法等について検討してほしい。</p>	<p>(生涯学習課)</p> <p>子ども会育成連絡協議会が取りまとめている単位子ども会からの安全共済会への加入申請状況において、令和元年度は19団体270名から令和2年度は11団体170名へ減少するなど、少子化の影響が表れており、各子ども会単位での活動が困難になってきていると思われる。</p> <p>今後は、子ども会の統廃合や子ども会同士が連携して活動するなど、子ども会のありかたについて、子ども会育成連絡協議会とともに検討していきたい。</p>
<p>5 (二ツ森貝塚に関する計画について)</p> <p>世界文化遺産登録に向けた二ツ森貝塚の環境整備や運営体制づくり等、着実に行われている。</p> <p>環境整備や運営計画にあたっては、世界文化遺産登録後の持続可能な運営を見据え、地域の特性や住民との共感性のマッチングを念頭に取り組んでほしい。</p>	<p>(世界遺産対策室)</p> <p>世界文化遺産登録を見据え、二ツ森貝塚の①保存管理、②価値や魅力の伝達、③地域の誇りと愛着の醸成を重点事業として、行政と町民の協働による活動を目指し、町民の声を反映した取り組みを展開していきたい。</p>

<p>6 (公民館・図書館事業について)</p> <p>公民館・図書館は地域づくりの拠点となる場であることから、町民に関心を持ってもらい、活発な活動をしていくことが大切である。</p> <p>幅広い年齢層に活用してもらうために、魅力のある施設づくりや活動内容の創意工夫を進めてほしい。</p>	<p>(七戸中央図書館)</p> <p>仕事や子育てなど図書館への来館が困難な人も活用できるよう、図書管理システムの改修を行い、HPの蔵書検索から予約ができる機能を追加し、郵送等で貸し出しを行うなど、図書館利用のための環境整備を進めていく。</p> <p>(七戸南公民館)</p> <p>地域づくりの拠点として、町民が関心を持ち、幅広い年齢層が参加できるような講座の企画(内容・時間帯等)や活動サークルの紹介など公民館活動のPRに努める。</p>
--	---

## Ⅱ 平成31年度七戸町教育施策の基本方針

七戸町教育委員会は、「潤いと彩りあふれる田園文化都市」の形成に向け、健康で、創造性に富み、新しい時代を主体的に切り拓く人づくりを目指し、

- 1 「生きる力」を育むための、子どもたちの未来のための、学校教育
  - 2 学校と家庭、地域が連携を深め、地域社会全体の教育力の向上
  - 3 伝統文化を尊重し、我が郷土に誇りをもつ態度の育成
  - 4 生涯を通して生き生きと学び続ける機会や場の提供
- を、関係機関・団体、地域との密なる連携を図りながら推進します。

# —「生きる力」を育むための、子どもたちの未来のための、学校教育—

## 学校教育の方針と重点

### 1 方針

郷土に誇りを持ち、多様性を尊重し、創造力豊かで、新しい時代を主体的に切り拓く児童生徒を育成するため、教育は人づくりという視点に立って、学校運営に創意工夫をこらし、夢や志の実現に向け、知・徳・体を育む学校教育の推進に努める。

### 2 重点

#### (1) 授業の充実

一人一人の子どもが、各教科や総合的な学習の時間等において主体的・対話的で深い学びを通して確かな学力を身に付けることができるよう、児童生徒理解に基づいた学年・学級経営の充実を図りながら、一人一人の能力・適性に応じた指導と学習習慣の育成に努める。

##### ア 教材研究の深化と魅力的な授業づくりの推進

- ・ 基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得
- ・ 言語活動の充実を図り、学習意欲を高めるために、解決する必要感のある学習課題の設定と解決の「見通し」を持たせる場の工夫
- ・ 自己の考えを深める対話的な学びにするための適切な授業形態の工夫
- ・ 目指す資質・能力の明確化・児童生徒の習熟の程度の把握・教材研究の深化に基づく、「習得・活用・探究」の学習過程を大切にした授業の実践

##### イ 指導と評価の一体化

- ・ 評価の観点に対応した指導と評価の一体化の充実
- ・ 必要に応じた補充的学習や発展的学習の導入
- ・ 学習内容の定着を図る「まとめ」と次の学びにつなげる「振り返り」の場の工夫

##### ウ 学習環境づくりと学習習慣の確立

- ・ 生徒指導の機能を生かした授業や学年・学級経営の充実
- ・ 学校間や家庭と連携した学び方や学習習慣の確立
- ・ 一人一人を生かすための学習環境の整備
- ・ 読書習慣を身に付けるための読書活動や学校図書館の有効活用
- ・ コンピュータ室機能の効果的な活用

#### (2) 道徳教育の充実

一人一人の子どもが、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を家庭、学校、その他の社会における具体的な生活の中に生かし、豊かな心をもつことができるよう、全教育活動を通じて道徳性の育成に努める。

##### ア 全教育活動全体を通じての道徳教育の充実

- ・ 児童生徒の発達の段階や特性等を考慮し、道徳科の特質を生かした多様な指導方法の工夫

- ・ 道徳教育推進教師を中心とした、道徳教育を推進する指導体制の整備と校内研修の実施
  - ・ 子どもの道徳性の実態に即した資料選択と分析・多様な指導方法の工夫
- イ 道徳性の育成や社会性の育成を目指した体験活動
- ・ 道徳の判断力、心情、実践意欲と態度を育てる指導の工夫
  - ・ 道徳の時間との関連性を明確にした体験活動の年間指導計画の作成・見直し
- ウ 郷土を愛する心を育む指導の充実
- ・ 我が国や郷土の伝統・文化に対する愛着と誇りを涵養する教育の推進
  - ・ 資料の開発・活用

### (3) 特別活動の充実

一人一人の子どもが、さまざまな集団活動に自主的、実践的に取り組み、集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、集団や社会における生活及び人間関係をよりよく築いていくことができるよう、望ましい集団や豊かな体験の中で互いの個性を認め合い、協力してよりよい生活や人間関係を築いていくことができるよう、必要な資質・能力の育成に努める。

#### ア 話し合い活動を生かした学級活動の実践と改善

- ・ 横断的な視点に立った年間指導計画の作成および見直し
- ・ 望ましい人間関係づくりや、生活をよりよくするための活動の工夫
- ・ 話し合って合意形成を図り、主体的に実践し、振り返る活動の充実

#### イ 主体的に活動する児童会活動・生徒会活動の工夫

- ・ 指導のねらいを明確にした活動内容の設定
- ・ 児童生徒の発想や計画を生かし、自治的・自発的な活動の指導・支援の工夫

#### ウ 児童の個性の伸長と触れあいを深めるクラブ活動の工夫

- ・ 児童の自発的な発想を生かしたクラブ活動の工夫
- ・ クラブ活動の教育的意義について共通理解を図り、児童が必要に応じて話し合い活動をするなど、協力して運営できる指導の充実

#### エ 集団への所属感や連帯感を深める学校行事の工夫

- ・ 教育活動全体を見通した調和のとれた学校行事の指導計画の作成
- ・ 行事のねらいや意義を理解させ、一人一人の児童生徒に具体的目標を持たせるための指導及び運営
- ・ 学校行事の評価の工夫

#### オ 各内容のねらいと意義を理解させ、一人一人の児童生徒に具体的目標を育てるための指導の充実

### (4) 体育・健康教育の充実

一人一人の子どもが、生涯にわたって自ら進んで運動に親しみ、健康で安全な生活と豊かなスポーツライフを送ることができるよう、家庭や地域社会との連携を図りながら、心と体を一体として捉え、健やかな体を育む教育の推進に努める。

ア 運動に親しむ資質や能力の育成及び体力の向上を図る指導の充実

- ・ ICTや話し合い活動を取り入れ、自己の能力に適した課題を見つけることができる指導の工夫
- ・ 体力テストの分析から、個人・集団の課題の明確化と課題解決に向けた具体的取り組みの充実

イ 保健学習及び保健指導の充実

- ・ 児童生徒の心身の健康状態を把握し、個人や集団の課題を明確にした指導の充実
- ・ 教科体育・学級活動等における保健学習及び保健指導等、教育活動全体を通じた体系的な保健教育の充実

ウ 食に関する指導の充実

- ・ 肥満傾向や過度の痩身、偏食、アレルギー等の個別指導が必要な子供への指導における担任、養護教諭と保護者との連携強化
- ・ 児童生徒の食生活の実態を踏まえ、望ましい食習慣を身に付けることができる指導の充実

エ 安全管理及び安全教育の充実

- ・ 各学校の実情に応じた危機管理マニュアルの見直し及び危険を予測し、安全に行動できるようにするための発達段階に応じた指導の工夫

オ 健康・安全のために、家庭や地域社会及び関係機関等との連携の推進

(5) 生徒指導の充実

一人一人の子どもが、豊かな生活を送ることができるよう、家庭や地域社会及び関係機関等との連携を図りながら、心の結びつきを基調とした指導を行うとともに、問題行動等の未然防止、早期発見・早期対応に努める。

ア 自己指導能力を育む協働的な指導体制の充実

- ・ 全教職員の共通理解に基づいた実践項目の設定と校内研修等のさらなる充実
- ・ いじめや不登校等の未然防止、早期発見・早期対応及び組織的な初期対応の充実
- ・ 問題行動・不登校等への組織的な取り組みの充実及び取り組み状況を定期的に点検・改善する機会や場の設定
- ・ 児童生徒の健全育成を図った学校間、家庭、地域社会及び関係機関等との連携

イ 生徒指導の機能を生かした授業や学年・学級経営の充実

- ・ 児童生徒との信頼関係を基盤とし、生徒指導の機能を生かした授業や取り組みの充実
- ・ 個に寄り添った教育相談体制及び組織的な初期対応の充実

ウ いじめの積極的な認知と組織的な対応の徹底

- ・ 児童生徒が自ら援助を求めることができるよう、教職員と児童生徒の信頼関係を深め、スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー等の外部専門家を学校いじめ対策組織に参画させ、初期段階からの積極的認知と対応
- ・ 児童生徒の些細な変化の共有と組織的な対応

(6) キャリア教育の充実

一人一人の子どもが、自らの生き方を考え、社会的・職業的自立ができるよう、必要な基盤となる資質、能力、態度の育成に努める。

ア 校内推進体制の整備・充実

- ・ キャリア教育の意義の共通理解に基づく指導体制の整備・充実
- ・ 学級活動をキャリア教育の要として位置付けた全体計画及び年間指導計画の作成・見直し

イ 現在及び将来の生き方を考える指導・進路指導の充実

- ・ 幅広い啓発的体験活動の意図的・計画的実施、保護者への積極的な情報発信の推進
- ・ 児童生徒の個性や能力の把握、悩みを解消するための具体的指導やキャリアカウンセリングの充実
- ・ 進路に関する情報や資料を整備・蓄積し、効果的な活用

ウ 児童生徒の発達の段階に応じた勤労観・職業観の育成

- ・ 社会参画意識の醸成や働くことの意義を意識させる体験活動の充実（小学校）
- ・ 社会参画意識の醸成や勤労観・職業観の形成を図る体験活動の充実（中学校）
- ・ 家庭や地域社会の協力を得た職場見学、職場体験等の更なる充実

(7) 特別支援教育の充実

発達障害を含む障がいのある子どもが、障がいによる学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するとともに、そのもてる力を最大限に発揮して自立や社会参加ができるよう、一人一人の教育的ニーズを把握し、適切な指導及び必要な支援に努める。

ア 校内支援体制の整備・充実

- ・ 校内及び校種間における引き継ぎ体制の整備と組織的・継続的支援
- ・ 専門性の向上のための研修の充実

イ 共生社会の形成に向けた、指導の充実

- ・ 個に応じた適切な教育課程の編成と指導と評価の充実
- ・ 共生社会の形成に向けた、ねらいや手立てを明確にした交流及び共同学習の実施
- ・ 個別の指導計画の作成と活用による指導の充実

ウ 家庭や地域社会及び関係機関との緊密な連携

- ・ 個々の障害の特性、将来の進路、指導方法に関する保護者との連携
- ・ 将来の自立や社会参加にむけて個別な支援計画の作成と家庭や地域社会及び関係機関との緊密な連携

(8) 環境教育の推進

一人一人の子どもが、環境と人間とのかかわりについて関心と理解を深め、環境に対する豊かな感受性を養うことができるよう、環境保全に主体的に取り組む態度の育成に努める。

ア 教科等間の連携を踏まえた指導の工夫

- ・ 全教職員による趣旨の共通理解と協力指導体制の整備
  - ・ 環境教育との関連を位置づけた、各教科等の年間指導計画の作成および指導の工夫
- イ 地域の環境の実態に即した指導の工夫
- ・ 小学校と中学校の連携に配慮し、効果的で継続的な指導
- ウ 環境にかかわる体験活動の推進
- ・ 学んだことを実践に結び付けるための、積極的な情報発信及び地域社会、関係機関との連携の充実

(9) 国際化に対応する教育の推進

一人一人の子どもが、我が国や諸外国の文化と伝統について関心と理解を深めるとともに、国際社会に貢献できるよう、国際理解教育の推進に努める。

ア 我が国や郷土に対する愛着と誇りを涵養する教育の推進

- ・ 郷土の伝統や文化等に関する教育の充実
- ・ 我が国と諸外国の文化等を相互理解するための指導の工夫
- ・ 異なった文化や習慣を持つ人々との交流の工夫

イ 外国語を通してコミュニケーションを図る資質・能力の育成

- ・ A L Tなどの効果的な活用及び各学年の領域に応じた言語活動の工夫・充実

ウ 異なった文化や習慣をもつ人々との交流の推進

- ・ 異なった文化や習慣、言語の人々との交流などを通して、世界への関心を深め、広い視野で物事を考えられるような児童生徒の育成

(10) 情報化に対応する教育の推進

一人一人の子どもが、情報モラルを含む情報活用能力を身に付けることができるよう、系統的・体系的な情報教育の推進に努める。

ア 情報教育を推進する指導体制の整備・充実

- ・ 組織的・計画的な情報教育の推進
- ・ 情報教育を推進するための校内研修等の計画・実施
- ・ 情報担当者を中心とした全体計画・年間指導計画の見直し、授業公開や活用事例蓄積といった I C T活用面での運用、教育情報セキュリティーポリシーの策定及び見直し

イ 学習指導におけるコンピュータ等の適切な活用の推進

- ・ 発達段階に応じた I C T の活用能力の育成
- ・ 学習過程に適切に位置づけた I C T の活用

ウ 家庭や地域社会と連携しながら児童生徒の安全を守る「情報モラル教育」の推進

- ・ インターネット上のトラブルから身を守るための知識や判断力を身につける活動の工夫

(11) 総合的な学習の時間の充実

自校で育てようとする資質や能力及び態度を明確にした総合的な学習の時間の充実に

努める。

ア 目標及びその趣旨の共通理解

- ・ 各学校における教育目標を踏まえたうえでの目標や内容の設定

イ 六つの要素を示した全体計画及び年間計画の改善

- ・ 小学校と中学校の接続を意識した計画的な取り組みの推進

ウ 学習活動の充実

- ・ 他者と協同して問題を解決しようとする学習活動の充実
- ・ 社会体験、体験活動、観察・実験、見学や調査、発表や討論等の学習活動の工夫

エ 評価方法の工夫

- ・ 自校の目標や内容に沿った評価の観点の設定と育てようとする資質や能力及び態度の育成を適切に評価するための評価基準の設定
- ・ 学習の結果だけでなく、学習の過程の評価方法の工夫

(12) 研修の充実

教職の専門性を高め、教育活動の充実を図るため、計画的・実践的な研修の充実に努める。

ア 組織的・計画的な研修の整備・充実

- ・ 同僚性を発揮し、所属学年・専門教科の枠を超えて主体的・協働的に取り組む研修体制の整備・充実
- ・ 校内外の研修から得た情報を共有する場の確保に努め、教育専門職として調和のとれた研修を推進

イ 学校の教育課題解決のための実践的研究方法や評価方法等の明確化と検証の共有化

- ・ 日常の授業実践に生かす、児童生徒の変容の評価・検証の工夫

ウ 新学習指導要領に基づく実践的研究の充実

- ・ 新学習指導要領の趣旨と内容の十分な理解に基づいた実践的研究の充実

# 一学校と家庭、地域が連携を深め、地域社会全体の教育力の向上— 社会教育行政の方針と重点

## 1 方針

町民が、自己の向上を目指して生きがいのある充実した生活を送るとともに、豊かで住みよい地域社会をつくり出すことができるよう、学びを生かしつながりをつくり出す社会教育の推進に努める。

## 2 重点

### (1) 学校・家庭・地域の協働による未来を担う人財の育成

#### ア 青少年の体験活動の充実

- ・ 身近な地域における体験活動での異年齢交流や世代間交流の促進
- ・ 関係団体との連携による、活動内容の充実

#### イ 地域が支えるキャリア教育の充実

- ・ 企業や関係機関・団体との連携による、キャリア形成のための学習機会の充実

#### ウ 地域全体で子どもを育む活動の充実

- ・ 学校支援ボランティア組織への支援
- ・ 学校・家庭・地域の協働による教育活動の充実

#### エ 家庭教育支援の充実

- ・ 学校及び関係機関との連携による、幼児期、学童期、思春期の子どもを持つ親に対する学習機会の充実
- ・ 子育てサークル等の家庭教育支援団体の育成と支援

### (2) 活力ある地域コミュニティの形成に向けた人財の育成

#### ア 地域活動の実践者の育成

- ・ 家庭教育支援や各種ボランティア活動等についての、新たな実践者の育成
- ・ 地域課題に対応した学習機会の提供及び企画運営に参画できる体制づくり

#### イ 地域活動の指導者、コーディネーターの養成

- ・ 各種ボランティア団体やサークルの地域活動の計画的支援並びに養成
- ・ 資質向上のための研修機会の提供

#### ウ 地域活動に関わる人財のネットワーク形成の支援

- ・ 各地域の指導者及びコーディネーター相互の交流機会の提供
- ・ 関係機関・団体等と連携協力するためのネットワークづくりの推進

### (3) 一人一人の主体的な学習と社会参加の推進

#### ア 関係機関との連携による多様な学習活動の支援

- ・ 多様な学習ニーズや地域課題をもとに、それらに応じた学習機会や学習の成

果を発表する場の充実

- ・ 関係機関との連携による学習内容の充実並びに主体的な学習活動の支援
- イ 学習成果を生かした社会参加活動の支援
- ・ 各種発表会・イベント・地域行事への参加等、学習の成果を生かす機会や発表の場の充実
  - ・ 学習者・参加者が企画立案にかかわるための実施体制の改善及び社会参加活動への支援
- ウ 国際化へ対応できる人材の育成
- ・ 小中学生を対象とした、ネイティブな英語に接する機会の提供

(4) 社会教育推進のための基盤整備

ア 社会教育推進体制の充実

- ・ 多様化する学習ニーズを反映させた社会教育計画の策定と、改善に役立つ事業評価の創意工夫
- ・ 関係機関・団体との連携協力体制の強化

イ 社会教育施設の機能の充実と活用の促進

- ・ 地域の特色と、公民館、図書館等の社会教育施設の特性を生かした取り組みの推進と活用の促進
- ・ イベントや講座等の企画の充実と周知方法の工夫による、施設活用の促進

ウ 社会教育関係職員の養成と資質の向上

- ・ 社会教育主事や図書館司書、学芸員等の有資格者の計画的な養成
- ・ 社会教育関係職員の研修機会の充実と資質の向上

エ 社会教育関係団体等の活動の支援

- ・ 社会教育関係団体指導者の各種研修への積極的な参加支援
- ・ 指導者養成研修の計画的な実施

※「人財」とは

青森県では、「人は青森県にとっての「財（たから）」である」という基本的考えから、「人材」を「人財」と表しています。この七戸町教育施策の基本方針でも「人財」という言葉で統一しています。

# —学校と家庭、地域が連携を深め、地域社会全体の教育力の向上—

## 公民館の方針と重点

### 1 方針

公民館は、社会教育機関として町民の学習要求に応えるほか、地域社会の活性化を図るために、良好な人間関係を基盤とした住民相互の豊かな関係を醸成するなど、地域づくりの拠点となることから、多くの町民が公民館に関心を持ってもらうとともに、更なる公民館利用促進につながるよう努める。

### 2 重点

#### (1) 公民館等の充実及び活用の促進

ア より多くの住民が利用しやすい公民館となるような環境整備

- ・ 施設や備品の計画的な整備促進
- ・ インターネットを活用した施設予約サービスの充実

イ 自己啓発・向上に資する講座・研修会等の開催

- ・ 子ども対象事業及び親子対象事業の充実
- ・ 地域活動に参加できるきっかけ（地域デビュー）の提供

ウ 各分野のリーダーの計画的・体系的な育成

- ・ 新たな自主グループの発足に向けての相談や支援の充実
- ・ グループ活動に繋がる主催講座の実施

#### (2) 社会教育団体や学習サークル等の活動への支援

ア 学習活動を支援する指導者・コーディネーター等の紹介・斡旋

- ・ 町内の人財活用
- ・ 利用者相互の交流の促進

イ 学習活動に必要な施設設備等の有効活用及び情報機器等による学習情報の提供

- ・ 県及び上北教育事務所管内で開催されるイベント及び各種講座、学習会の周知

ウ 各種発表会・展示会等、文化創造活動の機会と場の提供

- ・ 活動成果の積極的な披露

# —学校と家庭、地域が連携を深め、地域社会全体の教育力の向上—

## 図書館の方針と重点

### 1 方針

地域住民の資料や情報センターとしての役割を果たすとともに、ボランティア団体等の活動の支援や利用者のニーズに対応した環境整備と情報提供に努める。

### 2 重点

#### (1) 図書資料の整備充実と利用の促進

##### ア 図書館資料の充実

- ・ 蔵書のバランスを考慮し、かつ利用者ニーズに対応した一般書・児童書の収集整備
- ・ 地域資料の積極的な収集整備

##### イ 図書館サービスの充実

- ・ 予約・リクエスト・相互貸借サービスの利用による、利用者と本を結びつけるための迅速・適切な対応
- ・ レファレンスサービス（図書館資料を用いての調べもの案内）の強化

#### (2) 読書活動の推進

##### ア 子ども読書活動の推進

- ・ 幼児・児童が本に親しむ環境の整備
- ・ 日頃読書習慣のない児童に向けた、本に触れる機会の提供
- ・ 「ブックスタート事業」の推進
- ※ 乳児が絵本をとおして家族との触れ合いの時間を持ち、さまざまな子育て支援につなげるきっかけづくりを行う。

##### イ 生涯学習の推進及び支援

- ・ 生涯学習のきっかけとなる、さまざまな文学作品に触れる機会の提供
- ・ 読書団体への資料提供等協力や催事への後援

##### ウ ボランティア活動の育成と支援

- ・ 図書ボランティアの円滑な活動のための各種研修会への派遣や活動機会の提供

# —伝統文化を尊重し、我が郷土に誇りをもつ態度の育成—

## 文化財保護と芸術文化振興の方針と重点

### 1 方針

町民一人一人が、郷土に対する愛着と誇りをもち、潤いのある生活の実現を目指すとともに、芸術文化の伝承・創造や貴重な文化財の保存・活用の推進に努める。

### 2 重点

#### (1) 芸術文化活動の充実

芸術文化団体及びサークル等の自主的な活動を奨励し、その伝承・創造を促進するための支援に努める。

##### ア 芸術文化に関する団体及びサークル等の育成

- ・ 自主的な活動についての町内外への情報の発信
- ・ 芸術文化団体及びサークル等の連携による発表会の機会の創設

##### イ 鷹山宇一記念美術館等との連携

- ・ 芸術文化団体及びサークル等への研修機会の提供
- ・ 子ども・青少年が芸術に直接触れることのできる機会の提供

#### (2) 文化財の保存・活用の充実

町内に存在する有形・無形の文化財等の保存・活用とその環境の整備に努める。

##### ア 史跡二ツ森貝塚の世界文化遺産登録に向けた取組

##### イ 文化財の保存

- ・ 歴史上や学術上価値の高い有形・無形文化財や埋蔵文化財、民俗文化財等の保存
- ・ 文化財保護の周知・啓発
- ・ 国史跡指定地の公有地化

##### ウ 文化財の管理・活用

- ・ 二ツ森貝塚ガイダンス施設の整備
- ・ 史跡や天然記念物などの保存のための管理と環境保全
- ・ 保管している文化財の公開展示と公開講座等の開催

#### (3) 伝統芸能・工芸技術等の継承

郷土に伝わる伝統芸能・工芸技術等の保存・継承を奨励し、それに相応しい環境の整備に努める。

##### ア 伝統芸能・工芸技術等の保存

- ・ 歴史的価値の高い伝統芸能・工芸技術等の保存
- ・ 記録の作成等による保存と情報の発信

##### イ 伝統芸能・工芸技術等の継承

- ・ 伝承活動及び後継者の育成に対する支援
- ・ 伝統芸能・工芸技術等の発表機会の奨励・支援

#### (4) 文化交流センター施設の管理

##### ア 文化交流センター内にある資料の保存管理

# —生涯を通して生き生きと学び続ける機会や場の提供—

## 社会体育の方針と重点

### 1 方針

町民が、健やかで活力に満ちた生活の実現を目指すとともに、健康の維持増進・体力の向上に必要なスポーツ活動及び夢や感動を与える競技者・団体の育成等を通じて生涯スポーツ社会の実現に向けた環境づくりの推進に努める。

### 2 重点

#### (1) 生涯にわたるスポーツライフの実現

心身両面にわたる健康の維持増進と体力の向上を図るとともに、町民1スポーツの普及・奨励に努める。

##### ア スポーツに親しむ環境づくり

- ・ スポーツへの興味・関心を高める各種教室・講習会等の開催やスポーツ活動の機会の提供
- ・ 健康とスポーツとの関わりや気軽にできる軽スポーツ等の情報の提供

##### イ 地域スポーツ活動の普及・奨励

- ・ 町民相互の連携及び地域の活力の醸成を図るスポーツ交流の普及・奨励
- ・ 誰でも親しめる総合型地域スポーツクラブ設立への取組

#### (2) 競技者の育成を図る環境づくり

競技者の競技力の向上を図るとともに、トップレベルの競技者の育成に努める。

##### ア 競技力を高める環境づくり

- ・ 町体育協会やスポーツ少年団等の自主的な活動の奨励・支援
- ・ スポーツ科学を活用した選手及び指導者の育成と研修機会の提供

##### イ 各種スポーツ大会出場の奨励

- ・ 競技選手の強化支援体制の充実
- ・ 指導技術に長けた指導者の活用

#### (3) スポーツ振興の体制整備

生涯にわたるスポーツライフの実現を目指し、スポーツに親しみ競技力を向上させる体制整備に努める。

##### ア 指導者の確保

- ・ 要請に応じて地域やスポーツ団体へ指導者を派遣できる体制整備・活用
- ・ スポーツ推進委員や体育協会会員の研修会・講習会等への派遣

##### イ スポーツ振興の充実

- ・ 体育協会を中核として各種スポーツ団体や職域団体、地域の代表等の相互理解に基づく生涯スポーツへの取組
- ・ 構成する各種団体からの指導者の相互派遣

##### ウ 社会体育施設等の有効活用・利用促進

- ・ スポーツ担当職員の研修の充実と実地指導による支援
- ・ スポーツ活動に関する情報の収集・発信
- ・ 利用者ニーズに即した施設改修・整備の促進

### Ⅲ 平成31年度（令和元年度）教育委員会の活動状況について

教育委員会は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律（平成26年法律第76号）により、平成29年5月17日から教育長及び4人の委員をもって組織し、学校その他の教育機関の設置、管理及び廃止に関することや教育財産の管理に関すること、学校の教育課程、学習指導、生徒指導等に関すること等を管理、執行した。

#### 1 教育委員の構成

令和2年3月現在

役 職 名	氏 名	任 期
教 育 長	附 田 道 大	平成30年4月1日～令和2年5月16日
教育長職務代理者	山 田 典 郎	平成30年5月17日～令和2年5月16日
委 員	山 本 貴 子	平成30年5月17日～令和4年5月16日
委 員	附 田 由 喜 枝	平成29年5月17日～令和3年5月16日
委 員	菊 池 龍 達	令和元年5月17日～令和5年5月16日

#### 2 教育委員会の開催状況

七戸町教育委員会の会議は、毎月1回開催するほか、必要に応じて臨時会議を開催している。

また、所管する事項について調査及び研究を行い、現状の把握や課題の解決に努めるなど、教育行政の推進を図っている。

##### (1) 教育委員会会議（平成31年4月1日～令和2年3月31日）

開 催 回 数		付 議 案 件		
定 例 会	臨 時 会	報 告	議 案	協 議
12	1	35	30	4

#### 3 教育委員の会議以外の活動状況

教育委員は、毎月1回開催する定例会議、必要に応じて臨時会議に出席しているほか、学校等の教育施設を訪問して教育現場の状況を把握するとともに、研修会や教育委員会主催の各種行事に参加し、委員としての幅広い識見を養い、当町の教育行政の向上に努めている。

##### (1) 主な活動

学校訪問（小学校3校、中学校2校）	上十三教育委員会連絡協議会研修会
青森県教育委員会連合会研修会	成人式
小・中学校入学式・卒業式、小学校開校式等の学校行事	教育福祉援助基金授与式
教育奨励賞授与式	

#### IV 平成31年度（令和元年度）教育委員会の事務事業に対する教育評価審議会委員からの主な意見

七戸町教育委員会の事務事業評価の取り組みは、平成21年度に実施した平成20年度事務事業分から開始し、12回目の事業評価となるが、事業内容等が改善し、教育の充実が図られるよう評価を行ってきた。

平成31年度（令和元年度）事務事業について、同様に評価し審議した結果、以下のとおり、意見を述べる。

- ① 各事業について、全体的には見直し改善しながら取り組みされていて、成果が出ていることが認められる。今後も検討を重ねて事業の充実に努めていただきたい。
- ② 学校でのプログラミング教育は、今後、児童・生徒がICTを活用するうえで、基礎となる教育であるので、しっかりと定着できるよう努めていただきたい。
- ③ ICT活用について、機器やネットワーク環境の整備に努め、プログラミング教育に関する教職員の体制づくりを含め、支援を検討していただきたい。
- ④ ICT活用が進むことに伴い、学校や子どもに関連する情報セキュリティ対策と情報モラル教育を行っていただきたい。
- ⑤ 不登校問題について、学校では適切な対応をとっていると思うが、その中には、進学意思があっても集団に入って学習活動することが難しい生徒がいるので、そのような子にも、さらに支援していただきたい。
- ⑥ 教職員の多忙化を解消できることを着実にやっていただきたい。
- ⑦ 奨学資金貸付事業に関して、貸付額の増額を検討されているようだが、償還する時のことも考慮し、慎重に検討していただきたい。
- ⑧ 国際交流事業の見直しにより、英語に触れる機会が減ることが心配される。子どもの育成にとって意義のある重要な事業と考えるので、充実させる方向で見直し検討していただきたい。
- ⑨ 子どものあいさつは良くなってきていると見受けられるので、今後も、あいさ

つ運動を重要な事業として進めていただきたい。

- ⑩ ニツ森貝塚について、現在のところ、着々と事業を行っているようである。今後も、世界遺産登録に向けて施設整備、管理運営体制の充実に努めていただきたい。
- ⑪ 図書館（室）の利用を促進するために、工夫しながら事業が進められているが、さらに、町民のニーズを取り入れながら検討を重ねていただきたい。
- ⑫ 新図書館の整備にあたっては、将来充実した施設となるよう十分な検討を重ねていただきたい。

令和2年10月23日

七戸町教育評価審議会

委員 富 浦 一 行

委員 澤 田 良 子

委員 中 村 美知代

V 平成31年度（令和元年度）施策別主要事業一覧

施策分野	重点項目	事業細目番号	事業名	所管※	継続	充実	廃止	縮小	統合	完了	見直し検討	その他		
1	学校教育の方針と重点	(1) 授業の充実	1 (1) ① 町費負担臨時教員配置事業	学務	●	●								
			② 少人数学級編制等実践研究事業	学務	●	●								
			③ 英語教育コーディネーター配置事業	学務	●	●								
		(2) 道徳教育と特別活動の充実	1 (2) ① 七戸町教育奨励賞	学務	●	●								
			② 教育福祉援助基金給付事業	学務	●	●								
			③ 奨学資金貸付事業	学務	●	●								
	④ 特色ある学校づくり推進事業		学務	●	●									
	⑤ 学校給食費給付金交付事業		学務	●	●									
	(3) 体育・健康教育の充実	1 (3) ① 学校検診事業	学務	●	●									
		② 七戸町学校保健会補助事業	学務	●	●									
		③ 七戸町児童生徒対外遠征費補助事業	学務	●	●									
		④ 要保護及び準要保護児童生徒就学援助事業	学務	●	●									
	(4) 生徒指導・特別支援教育の充実	1 (4) ① 特別支援教育支援員配置事業	学務	●	●									
		② 学校生活相談員配置事業	学務	●	●									
		③ 教育支援委員会	学務	●	●									
		④ スクールソーシャルワーカー配置事業	学務	●	●									
	(5) 国際化に対応する教育の推進	1 (5) ① 外国語指導助手(A.L.T)派遣事業	学務	●	●							●		
	(6) 研修の充実	1 (6) ① 七戸町教育振興会補助事業	学務	●	●									
	2	(1) 学校・家庭・地域の協働による未来を担う人材の育成	2 (1) ① 家庭教育支援総合推進事業	生涯	●	●								
			② 放課後子ども教室推進事業	生涯	●	●								
			③ 異文化交流事業	生涯	●	●								
④ 国際交流推進事業			生涯	●	●									
(2) 次代を担う青少年の育成	2 (2) ① 成人式開催事業	中公	●	●							●			
(3) 社会教育推進のための基盤整備	2 (3) ① 七戸町子ども会育成連絡協議会支援事業	生涯	●	●										
	② 青少年育成七戸町会議	生涯	●	●										
	③ 七戸町子ども会育成連絡協議会支援事業	生涯	●	●										
3	(1) 芸術文化活動の充実	3 (1) ① 町立美術館の指定管理委託事業	生涯	●	●									
		② 文化芸術鑑賞事業	生涯	●	●									
		③ 七戸町民文化祭開催事業	生涯	●	●									
	(2) 文化財の保存・活用の充実	3 (2) ① 世界文化遺産登録に向けた取り組み	世界	●	●								●	
② ニツ森貝塚史跡公園管理		世界	●	●								●		
(3) 伝統芸能・工芸技術等の継承	3 (3) ① 七戸町郷土芸能保存会支援事業	世界	●	●								●		
(4) 文化交流センター施設の管理	4 (4) ① 文化交流センターの活用の充実	世界	●	●								●		
4	(1) 生涯にわたるスポーツライフの実現	4 (1) ① 七戸町ジュニアスキースクール	生涯	●	●									
		② 町民スポーツ交流会	生涯	●	●								●	
		③ 体育協会加盟団体によるスポーツ大会	生涯	●	●									
	(2) 競技者の育成を図る環境づくり	4 (2) ① 青森県民駅伝競走大会	生涯	●	●									
		② 体育協会補助事業	生涯	●	●									
		③ 七戸町スポーツ少年団活動費補助事業	生涯	●	●									
		④ 体育協会大会派遣事業(郡総合・北奥羽・県民体育大会)	生涯	●	●									
	(3) スポーツ振興の体制整備	4 (3) ① 七戸町スポーツ大会等選手派遣補助事業(東北大会・全国大会)	生涯	●	●								●	
		② 健康増進生涯スポーツ普及事業	生涯	●	●									
5	(1) 公民館等の充実及び活用の促進	5 (1) ① スポーツ推進委員研修	生涯	●	●									
		② スポーツ顕彰表彰	生涯	●	●									
		③ 各種大会開催や合宿等の誘致	生涯	●	●									
		④ 公民館運営審議員設置事業	中公	●	●									
		⑤ 中央公民館(施設)事業	中公	●	●									
		⑥ 中央公民館分館事業	中公	●	●									
(2) 社会教育団体や学習サークル等の活動への支援	5 (2) ① 中央公民館講座開設事業	中公	●	●										
	② 寿大学開設事業	中公	●	●										
6	(1) 図書資料の整備充実と利用の促進	6 (1) ① 柏葉大学開設事業	南公	●	●									
		② 七戸南公民館講座開設事業	南公	●	●									
		③ 七戸南公民館分館事業	南公	●	●									
		④ 七戸南公民館分館事業	南公	●	●									
	(2) 読書活動の推進	6 (2) ① 文化協会の育成支援事業	中公	●	●									
		② 七戸町連合婦人会育成事業	中公	●	●									
		③ 中央公民館だより発行事業	中公	●	●									
		④ 中央公民館図書室事業	中公	●	●									
(1) 図書資料の整備充実と利用の促進	6 (1) ① 図書館サービス事業	中図	●	●										
	② 図書館協議会の運営	中図	●	●										
	(2) 読書活動の推進	6 (2) ① 子どもの読書活動推進事業(中央公民館)	中図	●	●									
		② ボランティア活動の育成支援事業	中図	●	●									
(2) 読書活動の推進	6 (2) ③ 子どもの読書活動推進事業(中央図書館)	中図	●	●										
	④ 生涯学習の推進・支援事業	中図	●	●										

※学務：学務課 生涯：生涯学習課 世界：世界遺産対策室 中公：中央公民館 南公：南公民館 中図：中央図書館

# 事 業 評 価 シ ー ト

事業細目番号	1(1)①	担当課	学務課	担当者	工藤 和賀子
事業名	町費負担臨時教員配置事業				

事業費	年度		平成29年度	平成30年度	令和元年度
		決算額(千円)		21,192	20,503
財源内訳	国・県支出金				
	その他				
	町債				
	一般財源		21,192	20,503	16,084

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	<input type="checkbox"/> 内容
	各校の教育課題を解決するため、町独自の教員(臨時講師)を採用し、教育環境の充実による「確かな学力の定着」・「生徒指導の充実」等を図る。	1 七戸町教育委員会が求める人材 ・豊かな教養、人間性、社会性を兼ね備えた教師 ・教育に対する情熱と教育者として強い使命感をもって取り組む教師 ・子ども理解に優れ、教育の専門家として知識・技能を備えた教師  2 採用方法 ・広報、町HP等で募集し、選考試験を実施。

事業効果	年度		平成29年度	平成30年度	令和元年度
		項目(単位)			
	配置校・配置人数		七戸小学校 2名	七戸小学校 2名	七戸小学校 2名
			天間西小学校 1名	天間西小学校 1名	七戸中学校 1名
			七戸中学校 1名	七戸中学校 1名	

事業評価	評価項目		評価
	①必要性(町民が必要としていますか)	A 町民ニーズは高い      B 町民ニーズは低い(ない)	A
②妥当性(町が行うべきですか)	A 町が行うべきである      B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他	A	
③有効性(期待された効果は上がっていますか)	A 成果は上がっている      B 成果は上がっていない	A	
④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)	A 公平に配分されている      B 公平に配分されていない	A	
⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)	A コスト削減の余地はない      B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他	A	
⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)	A (75%)      B (50%)      C (25%) 優先性が高い      低い	A	
評価の説明	各校の教育課題を解決するため、平成26年度から実施している。配置校及び保護者からの需要と評価は高い。		

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他( )	令和元年度は3名配置。(新採用1名、継続2名。七小2名、七中1名。) 県費負担教員に採用されるなど、欠員が生じた場合の人材確保が課題となっており、募集方法について検討が必要。
----------	---	--

# 事業評価シート

事業細目番号	1(1)②	担当課	学務課	担当者	中村 大樹
事業名	少人数学級編制等実践研究事業				

事業費	年度		平成29年度	平成30年度	令和元年度
	決算額(千円)		0	0	0
財源内訳	国・県支出金				
	その他				
	町債				
	一般財源				

事業概要	□ 目的	□ 内容
	少人数学級編成を実現するため、県から希望する学校へ常勤講師を派遣して、児童生徒1人1人に対してきめ細かな学習指導を行うことによって、学力の向上を図る。	この事業は、青森県教育委員会の事業で、町の負担はない。授業の指導のみではなく、学級指導や給食指導も行う。本年度は、あもりっ子育みプラン21により、七戸小学校に1名配置された。

事業効果	年度		平成29年度	平成30年度	令和元年度
	項目(単位)				
配置校・人数		天間西小1名	七戸小1名、天間西小1名	七戸小1名	

評価項目		評価
事業 評価	①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い          B 町民ニーズは低い(ない)	A
	②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである          B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合)    (ア)国・県が行うべき    (イ)民間で実施可能    (ウ)その他	A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 成果は上がっている          B 成果は上がっていない	A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている          B 公平に配分されていない	A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない          B コスト削減の余地はある (Bの場合)    (ア)受益者負担    (イ)事業の簡素・効率化    (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携    (オ)適切な財源の選択    (カ)その他	A
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%)          B (50%)          C (25%) 優先性が高い    低い	A
評価の説明	本事業は、小中学校を対象とした青森県教育委員会の事業である。常勤講師を配置することによって、他の教員の負担が軽減され、児童生徒への指導が充実するなど教育環境全体の効果を上げている。	

今後の取組・課題  <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他(    )	本事業は青森県教育委員会事業であり、町の財政的負担を伴わない事業であるため、費用対効果が大きい。教職員の事務量が増大してきている中で、児童へのきめ細かな学習指導に効果が大いいため、継続して県に対して要望・申請する。
---	---

## 事 業 評 価 シ ー ト

事業細目番号	1(1)③	担当課	学務課	担当者	工藤 和賀子
事業名	英語教育コーディネーター配置事業				

事業費	内訳	年度	
		平成30年度	令和元年度
	決算額(千円)	1,392	1,411
財源内訳	国・県支出金		
	その他		
	町債		
	一般財源	1,392	1,411

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的 小学校新学習指導要領(平成29年文部科学省告示第63号)により、2020年度から小学校において英語が教科となるため、英語指導の専門性を有する者を設置し、小学校教員の指導力を養成するとともに、児童の学習援助及び学校の教育力を向上させるため。	<input type="checkbox"/> 内容 学校長の指揮のもと、次の業務を行う。 1.チーム・ティーチングによる授業支援及び学習指導に関わる教員の指導。 2.学年の年間指導計画、学習到達目標の整備に関わる指導。 3.教員の英語力向上を図るための校内研修の計画・実施に関わる指導。 4.学習到達評価の枠組み及び評価実施方法の設定に関わる指導。
------	--	---

事業効果	項目(単位)	年度	
		平成30年度	令和元年度
	配置校・配置人数	天間西小学校 1名	天間林小学校 1名

事業評価	評 価 項 目			評 価
	①必要性(町民が必要としていますか)	A 町民ニーズは高い	B 町民ニーズは低い(ない)	
②妥当性(町が行うべきですか)	A 町が行うべきである	B 町が行う必要性は薄れている(ない)		A
	(Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他			
③有効性(期待された効果は上がっていますか)	A 成果は上がっている	B 成果は上がっていない		A
④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)	A 公平に配分されている	B 公平に配分されていない		A
⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)	A コスト削減の余地はない	B コスト削減の余地はある		A
	(Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託	(エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他		
⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)	A (75%)	B (50%)	C (25%)	B
	優先性が高い		低い	
評価の説明	小学校教員の英語指導力の養成と児童の学習援助等を目的として平成30年度から実施。令和元年度は天間林小学校を拠点校に1名配置し、町内全小学校(3校)で活動した。チームティーチング(TT)による指導や指導計画立案の援助などを行い、英語指導の充実が図られた。			

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他( )	初年度(平成30年度)は試験的運用で天間西小学校にのみ配置したが、令和元年度は、天間林小学校を拠点校として町内全小学校(3校)で活動した。次年度以降も継続していく。
----------	---	--

# 事業評価シート

事業細目番号	1(2)①	担当課	学務課	担当者	天間 正子
事業名	七戸町教育奨励賞				

事業費	年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
	決算額(千円)		78	105
財源内訳	国・県支出金			
	その他			
	町債			
	一般財源	78	105	97

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	園児・児童生徒が教育文化活動・スポーツ活動において優秀な成績を収めた団体及び個人を表彰することにより、能力開発や健全育成を図ることを目的とする。	<input type="checkbox"/> 内容	表彰基準に該当する者で学校長及び各種スポーツ少年団本部長から推薦があった者の中から教育委員会が審査し、各賞を決定する。 表彰式は年1回実施。
------	-----------------------------	--	-----------------------------	---

事業効果	年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
	項目(単位)			
特別優秀賞		該当者なし	個人の部1名	該当者なし
最優秀賞		個人の部2名	個人の部2名	個人の部4名
優秀賞		個人の部13名	団体の部1団体、個人の部22名	団体の部2団体、個人の部25名
優良賞		団体の部6団体、個人の部14名	団体の部2団体、個人の部14名	団体の部2団体、個人の部18名

事業評価	評価項目		評価
	①必要性(町民が必要としていますか)	A 町民ニーズは高い      B 町民ニーズは低い(ない)	A
②妥当性(町が行うべきですか)	A 町が行うべきである      B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他	A	
③有効性(期待された効果は上がっていますか)	A 成果は上がっている      B 成果は上がっていない	A	
④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)	A 公平に配分されている      B 公平に配分されていない	A	
⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)	A コスト削減の余地はない      B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他	B (イ)、(エ)	
⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)	A (75%)      B (50%)      C (25%) 優先性が高い      低い	B	
評価の説明	七戸町教育奨励賞表彰要綱を整備し、表彰基準を満たした者について審査することや、県大会以上の大会を表彰基準とすること、高校生の文化活動に対する基準を明確にしたことにより、公平性の改善を行った。教育文化及びスポーツ活動において、児童生徒の能力開発、健全育成の充実に繋がっている。		

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他( )	少子化により上位大会の出場権が得られやすくなっていることにより、表彰基準の該当率が高くなっている。このことから、引き続き、表彰基準を慎重に検討し、児童生徒にとって教育文化活動及びスポーツ活動の活性化に繋げていく。
----------	---	--

# 事 業 評 価 シ ー ト

事業細目番号	1(2)②	担当課	学務課	担当者	天間 正子
事業名	教育福祉援助基金給付事業				

事業費	年 度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	
	決算額(千円)	1,500	1,500	1,500	
	財源内訳	国・県支出金			
		その他	1,500	1,500	1,500
		町 債			
一般財源					

事業概要	□ 目的	□ 内容
	高等学校・高等専門学校へ進学し、勉学に意欲的に取り組み、他の模範となる生徒に対し、七戸町民として自覚と誇りを持ち学業に励んでもらうために、入学祝金として奨学金を授与する。	出願資格は、七戸町民で、七戸町内の中学校3学年に在学し、翌年度に高等学校・高等専門学校へ進学する者で、学業優秀な者(成績評定が3.5以上)であること。

事業効果	年 度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
	項目(単位)			
	給付金額(円)	1,500,000	1,500,000	1,500,000
	給付者数	30人	30人	30人
	給付金額(1人当たり)	50,000	50,000	50,000

評 価 項 目		評 価
事業評価	①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い                  B 町民ニーズは低い(ない)	A
	②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである                  B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合)    (ア)国・県が行うべき    (イ)民間で実施可能    (ウ)その他	A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 成果は上がっている                  B 成果は上がっていない	A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている                  B 公平に配分されていない	A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない                  B コスト削減の余地はある (Bの場合)    (ア)受益者負担    (イ)事業の簡素・効率化    (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携    (オ)適切な財源の選択    (カ)その他	A
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%)                  B (50%)                  C (25%) 優先性が高い    低い	A
評価の説明 中学校生徒に奨学金を直接交付することにより、町として期待の意を伝えることができ、修学の意義について考えてもらう良い機会となっている。そのことが修学意欲の向上に繋がり、その後の郷土愛の発揚にも寄与している。		

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他( )	事業の趣旨に即した成果を得られている。 生徒数も減少しているため、令和2年度から町内中学校全卒業予定者数の20%以内を対象人数とし、本事業を可能な限り継続していく。
----------	--	---

# 事 業 評 価 シ ー ト

事業細目番号	1(2)③	担当課	学務課	担当者	中村 大樹
事業名	奨学資金貸付事業				

事業費	年 度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
	決算額(千円)	18,152	21,340	19,140
	財源内訳			
	国・県支出金			
	町 債			
	一般財源	18,152	21,340	19,140

事業概要	□ 目的	□ 内容
	七戸町に住所を有する者の子弟で、学業の優れた学生及び生徒であつて経済的理由により就学が困難なものに対して資金を貸し付け、人材育成を図る。	貸付を受けることができる者は、学校教育法第53条に規定する学部、学科及び課程に在学する者、又は法第82条の3に規定する専修学校の専門課程に在学し、父母又は後見人等が七戸町に1年以上住所を有する者、外国の大学に在学する者。 貸付額は、大学に在学する者は4万円以内、外国の大学に在学する者は5万円以内、大学又は専門学校に進学する者は入学一時金として50万円を限度に貸し付ける。

事業効果	年 度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
	項目(単位)			
	貸付額(円)	18,152,000	21,340,000	19,140,000
	貸付者(新規・継続)人数	33	36	33
	新規採用者(再掲)	12	14	11
	滞納総額(円)年度末現在	16,363,550	16,241,900	16,197,500

事業評価	評 価 項 目		評 価
	①必要性(町民が必要としていますか)	A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)	A
	②妥当性(町が行うべきですか)	A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他	A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか)	A 成果は上がっている B 成果は上がっていない	A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)	A 公平に配分されている B 公平に配分されていない	A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)	A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他	A
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)	A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い	A
評価の説明	町民ニーズは高く、保護者の経済的支援をしている。大学等進学率など教育を受ける機会の増加に効果을上げており、成果が上がっている。令和元年度は、世帯所得基準を見直し、事務処理の効率化を図ることができた。		

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他(                                    )	<p>貸し付け申請や償還の事務処理を効率よく、かつ厳正に行うことにより、より安定的な運営を行うことができ、長期にわたる運営を可能にできるため、貸付金額の増加について検討していく。</p>
----------	--	---

# 事業評価シート

事業細目番号	1(2)④	担当課	学務課	担当者	天間 正子
事業名	特色ある学校づくり推進事業				

事業費	年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
	決算額(千円)		919	1,438
財源内訳	国・県支出金			
	その他			
	町債			
	一般財源	919	1,438	1,244

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	児童生徒の「生きる力」をはぐくむため、教育活動・学校行事(文化芸術事業・体育事業等)などの学校教育課程に位置づけられる教育活動を推進することを目的とする。	<input type="checkbox"/> 内容	各小中学校が、通常の授業では得ることのできない教育活動を企画し、予算の範囲内において、学力向上を掲げる教科の教材費や専門的な知識・技術を有する外部講師に対する謝礼金等各学校において柔軟な事業を実施した。
------	-----------------------------	---	-----------------------------	---

事業効果	年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
	項目(単位)			
対象小学校件数		4校	4校	3校
小学校補助金額		608,000円	955,000円	770,000円
対象中学校件数		2校	2校	2校
中学校補助金額		311,000円	483,000円	474,000円

事業評価	評価項目		評価
	事業評価	①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い      B 町民ニーズは低い(ない)	
②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである      B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき      (イ)民間で実施可能      (ウ)その他		A	
③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 成果は上がっている      B 成果は上がっていない		A	
④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている      B 公平に配分されていない		A	
⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない      B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担      (イ)事業の簡素・効率化      (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携      (オ)適切な財源の選択      (カ)その他		B (イ、オ)	
⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%)      B (50%)      C (25%) 優先性が高い      低い		B	
評価の説明	各小中学校の特色を生かした行事等を自由に計画できることから、各校からのニーズは高い。学校の規模(学級数・児童生徒数)により補助金額を決定・交付し、各校において教育目標を達成するために独自の・柔軟的に事業を実施している。		

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他( )	教育課程で生きる力を育むための事業であり、各校独自の事業を実施。通常の授業では得ることのできない知識や教養を身につけることのできる事業であり継続の要望は大きい。
----------	---	--



# 事業評価シート

事業細目番号	1(3)②	担当課	学務課	担当者	天間 楓
事業名	七戸町学校保健会補助事業				

事業費	財源内訳	年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
		決算額(千円)	200	170	170
	国・県支出金				
	その他				
	町債				
	一般財源	200	170	170	

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	<input type="checkbox"/> 内容
	七戸町内のこども園・保育園・小中学校及び七戸高校・七戸養護学校の児童・生徒の健康増進を図る。また、養護教諭、保健主事の資質向上を図る。	①学校保健衛生の施策に対する協力 ②保健衛生思想の普及啓発 ③学校保健に関する調査研究・事業計画および実践 ④学校関係者の指導および研修 ⑤学校保健施設の助成 ⑥学校保健資材の斡旋 ⑦家庭における保健思想の啓発 ⑧学校給食の実施・促進及び管理指導

事業効果	年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
	項目(単位)			
	全国学校保健主事・学校保健研究大会研	青森県「これだけでできれば十分！一人でも自信が持てるようになる養護臨床塾」	宮城県「自ら守り育てる心とからだ」	参加なし
	七戸町学校保健研究大会	天間林東「思いやりと笑顔あふれる学校を目指して～健やか健康会議の取組～」	天間西小「心身ともに健やかな子供たちを育てるために」	七戸中「生徒会保健委員会活動を通じたけが予防と運動習慣形成をめざして」
	保健主事研修会	8月 夏季合同研修会	8月 夏季合同研修会	8月 夏季合同研修会
	〃	12月 冬季合同研修会(普通救命講習)	1月 冬季合同研修会(普通救命講習)	1月 冬季合同研修会(普通救命講習)

事業評価	評価項目		評価	
	①必要性(町民が必要としていますか)	A 町民ニーズは高い	B 町民ニーズは低い(ない)	A
②妥当性(町が行うべきですか)	A 町が行うべきである	B 町が行う必要性は薄れている(ない)	A	
③有効性(期待された効果は上がっていますか)	A 成果は上がっている	B 成果は上がっていない	A	
④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)	A 公平に配分されている	B 公平に配分されていない	A	
⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)	A コスト削減の余地はない	B コスト削減の余地はある	A	
⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)	A (75%)	B (50%)	C (25%)	A
評価の説明	町の連合PTAと合同で研修会などを行うことにより、学校の健康指導だけでなく、家庭での健康への意識啓発につなげることができた。			

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他( )	健康教育については横断的に取り組む必要があることから、保護者への情報提供の場としても、今後も継続していく必要がある。
----------	--	--

# 事業評価シート

事業細目番号	1(3)③	担当課	学務課	担当者	天間 正子
事業名	七戸町児童生徒対外遠征費補助事業				

事業費	年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	
	決算額(千円)	4,579	4,062	2,152	
	財源内訳	国・県支出金			
		その他			
		町債			
一般財源	4,579	4,062	2,152		

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	小・中学校における部活動において、遠征費の一部を補助することで部活動の推進及び競技力の向上並びに児童生徒の安全確保を図るとともに、保護者等の経済的負担を軽減する。	<input type="checkbox"/> 内容	県大会以上の大会へ参加した、七戸中学校、天間林中学校が、延べ21大会に出場し、参加料、プログラム代、食糧費、交通費、宿泊費、借り上げ料等を補助した。 うち、全国大会1団体、東北大会へ2団体2個人が出場した。
------	-----------------------------	---	-----------------------------	--

事業効果	年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
	項目(単位)			
	小学校対象件数	0件	2件	2件
	小学校補助金額	0円	65,092円	53,518円
	中学校対象件数	30件	32件	21件
中学校補助金額	4,578,678円	3,996,627円	2,097,821円	

事業評価	評価項目			評価
	①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い                      B 町民ニーズは低い(ない)			A
	②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである                      B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他			A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 成果は上がっている                      B 成果は上がっていない			A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている                      B 公平に配分されていない			A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない                      B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他			B (イ)
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%)                      B (50%)                      C (25%) 優先性が高い                      低い			A
評価の説明	本事業は、県大会以上の遠征費の一部を補助することで、児童生徒の体育活動及び文化活動の活性化を担っている。特に東北大会、全国大会など県外遠征は、交通費及び宿泊費等の保護者並びに指導者負担が大きくなることから、上位大会出場に対する経済的負担を軽減することで、児童生徒の積極的な教育活動に有効性が認められる。			

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他( )	本事業は、保護者及び学校側から要請される事業であるが、基準に基づき、公正かつ公平性を保持した運用を行い、事業を継続する。
----------	--	--

# 事業評価シート

事業細目番号	1(3)④	担当課	学務課	担当者	工藤 和賀子
事業名	要保護及び準要保護児童生徒就学援助事業				

事業費	年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
	決算額(千円)		4,643	4,351
財源内訳	国・県支出金	110	24	64
	その他			
	町債			
	一般財源	4,533	4,327	4,959

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	<input type="checkbox"/> 内容
	経済的理由によって就学困難と認められる児童生徒の保護者に対し、学用品費等を援助することにより、義務教育の円滑な実施を図ることを目的とする。	七戸町就学援助費支給要綱に基づき、経済的に困窮し、就学困難な児童生徒の保護者から就学援助申請があった場合は、世帯の経済状況を審査し認定する。援助対象費目は、学用品費、通学用品費、新入学児童生徒学用品費、修学旅行費等。 なお、要保護児童生徒に関しては、修学旅行費を支給する。

事業効果	年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
	項目(単位)			
援助費支給額実績(円)		4,642,382	4,350,441	5,022,818
準要保護支給対象者		107	107	116
要保護支給対象者		4	1	2

事業評価	評価項目		評価
	事業評価	①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い      B 町民ニーズは低い(ない)	
②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである      B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他		A	
③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 成果は上がっている      B 成果は上がっていない		A	
④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている      B 公平に配分されていない		A	
⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない      B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他		A	
⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%)      B (50%)      C (25%) 優先性が高い      低い		A	
評価の説明	経済的困窮世帯が多く、就学援助の必要性は極めて高く、児童生徒の就学支援の効果は高い。給食援助費については、町単独の学校給食費補助金から支給となることにより、区域外就学児童生徒の保護者(町立小中学校に就学する児童生徒の保護者で町外に住所を有する者)のみに支給されている。		

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他( )	経済的困窮世帯にとって当該事業の必要性は高く、児童生徒の教育に支障をきたすことの無いよう今後も事業を継続していく。また、認定基準の明確化及び手続き効率化の検討も続け、適正な運営を行っていく。
----------	---	---



# 事業評価シート

事業細目番号	1(4)①	担当課	学務課	担当者	工藤 和賀子
事業名	特別支援教育支援員配置事業				

事業費	年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
		決算額(千円)	17,219	20,663
財源内訳	国・県支出金			
	その他			
	町債			
	一般財源	17,219	20,663	20,131

事業概要	□ 目的	□ 内容
	小・中学校の通常学級及び特別支援学級に在籍する特別な支援を必要とする児童生徒の学習指導の補助、生活指導の補助及び介助等を行うことを目的に、各小・中学校に特別支援教育支援員を配置する。	学校長の指揮監督のもと、学級担任と連携し、次の支援を行う。 ①基本的な生活習慣確立のための学校生活上の介助 ②学習補助 ③学習活動、教室間移動等における介助 ④校外行事や運動会等、各行事における介助

事業効果	年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
	項目(単位)			
配置校・支援員数		小学校 4校 ・ 12名	小学校 4校 ・ 12名	小学校 3校 ・ 11名
		中学校 2校 ・ 4名	中学校 2校 ・ 3名	中学校 2校 ・ 4名

評価項目		評価
事業評価	①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い      B 町民ニーズは低い(ない)	A
	②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである      B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき      (イ)民間で実施可能      (ウ)その他	A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 効果は上がっている      B 効果は上がっていない	A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている      B 公平に配分されていない	A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない      B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担      (イ)事業の簡素・効率化      (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携      (オ)適切な財源の選択      (カ)その他	A
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%)      B (50%)      C (25%) 優先性が高い      低い	A
評価の説明	特別な支援を必要とする児童生徒が増加傾向にあり、個々の状態に応じた適切な教育を行う上で、特別支援教育支援員を配置することは、必要性、有効性ともに高く、重要な事業となっている。	

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他( )	今後さらに必要性が増していくと考えられる。適切な支援をしていくためには、専門的な知識を身に付け、具体的な支援技術を習得していく必要があり、各種研修会を利用して、支援員の資質向上に努めていかなければならない。
----------	---	---

# 事 業 評 価 シ ー ト

事業細目番号	1(4)②	担当課	学務課	担当者	工藤 和賀子
事業名	学校生活相談員配置事業				

事業費	年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	
	決算額(千円)	4,145	4,219	4,219	
	財源内訳	国・県支出金			
		その他			
		町債			
	一般財源	4,145	4,219	4,219	

事業概要	□ 目的	□ 内容
	児童生徒の悩みや不安などを解消し、安心して充実した学校生活を送られる環境づくりを進める。 また、教職員と連携し、いじめや不登校等の未然防止、早期発見・早期対応を行うことを目的とする。	学校長の指揮監督のもと、児童生徒の悩みや不安解消のため個別にカウンセリングを実施したり、いじめや不登校児童生徒の指導を行うため、次の支援を行う。 ①児童生徒や保護者の悩みに対する相談対応 ②児童生徒の学校生活の適応援助 ③地域と学校の連携支援 ④その他学校における教育相談活動の支援

事業効果	年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
	項目(単位)			
	配置校・相談員数	七戸小学校 1名	七戸小学校 1名	七戸小学校 1名
		天間西小学校 1名	天間西小学校 1名	天間林小学校 1名
		七戸中学校 1名	七戸中学校 1名	七戸中学校 1名
	天間林中学校 1名	天間林中学校 1名	天間林中学校 1名	

評 価 項 目		評 価
事業評価	①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い      B 町民ニーズは低い(ない)	A
	②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである      B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他	A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 成果は上がっている      B 成果は上がっていない	A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている      B 公平に配分されていない	A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない      B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他	A
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%)      B (50%)      C (25%) 優先性が高い      低い	A
評価の説明	児童生徒の不登校やいじめなどの問題行動が多様化し、学校や保護者だけでは、解消することが困難となっている現状にある。このことから、児童生徒の学校生活を安定させるために、気軽に、そして素直に話すことができる第三者として学校生活相談員は、重要な役割を担っている。	

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他( )	児童生徒が気軽に相談できることがストレスの軽減につながり、また、児童生徒の小さな変化にも気づくことができるメリットがある。 今後も継続していくことが必要であり、各学校の状況に応じて配置をしていかなければならない。
----------	---	---

# 事業評価シート

事業細目番号	1(4)③	担当課	学務課	担当者	天間 楓
事業名	教育支援委員会				

事業費	年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	
	決算額(千円)	0	0	0	
	財源内訳	国・県支出金			
		その他			
		町債			
一般財源					

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	保護者の希望により障がいのある、又は、発達や行動の気になる児童生徒にとって、適切な教育の場を決定できるよう、専門知識のある者によって構成された教育支援委員会において一定の判定をする。	<input type="checkbox"/> 内容	七戸町と東北町とで共同設置の中部上北教育支援委員会 (1)障がいのある、又は、発達や行動が気になる就学予定児、児童及び生徒の適切な教育措置に係る総合診断 (2)就学に係る教育相談 (3)その他、中部上北広域事業組合教育委員会教育長が必要と認めたる者
------	-----------------------------	---	-----------------------------	---

7	年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
	項目(単位)			
	対象児童生徒数	26	25	33
	入級・入校判定者数	16	22	29
	実入級・入校者数	12	19	27

事業評価	評価項目			評価
	①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)			A
	②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他			A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 成果は上がっている B 成果は上がっていない			A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている B 公平に配分されていない			A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他			A
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%) 優先性が高い B (50%) C (25%) 低い			A
評価の説明	関係各機関と随時情報交換を行うことで、学校生活に関して困り感を抱えている児童生徒への適切な支援対策を検討することができた。			

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他( )	特別支援教育に対する保護者への不安や抵抗感を緩和するために、引き続き、適切な情報提供と対応を行っていく必要がある。
----------	---	---

# 事 業 評 価 シ ー ト

事業細目番号	1(4)④	担当課	学務課	担当者	工藤 和賀子
事業名	スクールソーシャルワーカー配置事業				

事業費	年度	平成29年度		平成30年度		令和元年度	
		決算額(千円)		2,786	2,818	2,771	
	財源内訳	国・県支出金					
		その他					
		町債					
一般財源		2,786	2,818	2,771			

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	問題を抱える児童生徒に対し、教育や社会福祉についての専門的な知識や技術を用い、関係機関とのネットワークを活用するなど、多様な支援方法で問題解決を図ることを目的とする。	<input type="checkbox"/> 内容	問題を抱える児童生徒が安心して学校生活を送れるよう、教育長の指揮監督のもと次の支援をする。 ①関係機関とのネットワークの構築、連携及び調整 ②問題を抱える児童生徒及びその家庭への支援 ③学校内におけるチーム体制の構築及び支援 ④問題に関する保護者、教職員等に対する支援や相談、情報提供
------	-----------------------------	---	-----------------------------	--

事業効果	年度	平成29年度		平成30年度		令和元年度		
	項目(単位)		教育委員会内(子ども支援ルーム)1名		教育委員会内(子ども支援ルーム)1名		教育委員会内(子ども支援ルーム)1名	
	配置場所・人数							

	評価項目	評価
事業 評価	①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い                      B 町民ニーズは低い(ない)	A
	②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである                      B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他	A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 効果は上がっている                      B 効果は上がっていない	A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている                      B 公平に配分されていない	A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない                      B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他	A
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%)                      B (50%)                      C (25%) 優先性が高い                      低い	A
評価の説明	児童生徒を取り巻く環境は複雑、多様化しており、問題を抱える児童生徒については深刻化している傾向にある。そのため、学校・家庭・関係機関をつなぎ、状況改善に取り組むスクールソーシャルワーカーは、重要な役割を果たしている。町費負担常勤であることから、長期的および緊急的な対応が出来る。	

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他(                      )	学校にとって、問題を抱える児童生徒の家庭や関係機関をつなぐ役割を果たすスクールソーシャルワーカーの設置意義は大きく、成果を残している。本事業は平成28年度からの事業であり、今後も継続していく必要がある。
----------	--	---

# 事 業 評 価 シ ー ト

事業細目番号	1(5)①	担当課	学務課	担当者	倉岡 優樹
事業名	外国語指導助手(ALT)派遣事業				

事業費	年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	
	決算額(千円)	8,637	8,928	7,649	
	財源内訳	国・県支出金			
		その他			
		町債			
一般財源	8,637	8,928	7,649		

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	<input type="checkbox"/> 内容
	外国語教育の充実を図るとともに国際交流の推進を図り、国際理解教育の推進を図ることを目的とする。	JETプログラム(語学指導を行う外国青年招致事業)を活用し、2人のALTを町内の小・中学校に派遣し、外国語教育の充実を図っている。 ①学校における外国語授業の補助 ②学校における外国語活動の補助 ③特別活動及び課外活動への協力 ④外国語担当教員の研修補助 ⑤外国語教材の作成の補助及びスピーチコンテスト等への協力 ⑥地域における国際交流活動への協力

事業効果	年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
	項目(単位)	ALT派遣校等		ALT派遣校等
		幼稚園 1 保育園 6	小学校 4	小学校 3
		小学校 4	中学校 2	中学校 2
		中学校 2		

事業評価	評価項目			評価
	①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)			A
	②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他			A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 成果は上がっている B 成果は上がっていない			A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている B 公平に配分されていない			A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他			A
評価	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い			A
	評価の説明	教育委員会に所属するALT2名を七戸町内小・中学校に派遣し、各教員と連携して、生きた英語に触れる機会を増やした。		

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input checked="" type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他( )	小学校の英語教科化に向けてよりよい環境が求められているが、ALTの入れ替わりが激しく、新任者が来るたびに教員や児童生徒が、再び初めから関係を築いていかなければならない状況が続いている。継続的な指導をしていくための対策を検討する必要がある。
----------	---	---

# 事 業 評 価 シ ー ト

事業細目番号	1(6)①	担当課	学務課	担当者	天間 楓
事業名	七戸町教育振興会補助事業				

事業費	年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
	決算額(千円)		1,933	1,629
財源内訳	国・県支出金			
	その他			
	町債			
	一般財源	1,933	1,629	1,444

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	幼児・児童・生徒の教育文化及び体育の振興と教職員の資質向上に係る事業を行い、教育の振興を図る。	<input type="checkbox"/> 内容	○幼児・児童・生徒の教育、文化及び体育の振興事業 スポーツ交流会、小・幼・保育園交流会等 ○教職員の資質向上事業 ふるさと研修、研究活動等

事業効果	年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
	項目(単位)			
体育・学芸委員会		各種体育大会・作品展参加助成	各種体育大会・作品展参加助成	各種体育大会・作品展参加助成
職員研修		ふるさと研修・先進地視察等	ふるさと研修・先進地視察等	ふるさと研修・先進地視察等
教育講演会		エビベン講習会・食物アレルギーに関わる講話	-	-
先進校等研修(幼・保育園)実施		6校(7園)	6校(6園)	5校(6園)

事業評価項目		評価
事業評価	①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い      B 町民ニーズは低い(ない)	A
	②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである      B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他	A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 成果は上がっている      B 成果は上がっていない	A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている      B 公平に配分されていない	A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない      B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他	A
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%)      B (50%)      C (25%) 優先性が高い      低い	A
評価の説明	七戸町の教育環境充実のため、教職員の研修等への積極的な参加を促した。また、園や学校同士の交流事業を行うなど、横断的な取り組みも行った。 また、平成29年度から30年度にかけて、他事業と重複する部分を一本化するなど事業整理を行い、令和元年度は効率化を図ることができた。	

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他( )	教職員の資質向上や、園・学校間交流を行うことにより、進学のスムーズな移行に貢献していることから、今後も継続していく。
----------	--	--

# 事業評価シート

事業細目番号	1(6)②	担当課	学務課	担当者	中村 大樹
事業名	教職員ふるさと研修事業				

事業費	年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	
	決算額(千円)	10	10	10	
	財源内訳	国・県支出金			
		その他			
		町債			
一般財源	10	10	10		

事業概要	□ 目的	青森県教育委員会が定める初任者研修実施要領に基づき、市町村教育委員会研修として、七戸町教職員初任者及び赴任者を対象に七戸町の教育課題や文化、歴史等についての研修を行い、理解を深める。	□ 内容	七戸町発展のあゆみや産業、文化について研修した。今年度は、史跡ニツ森貝塚、史跡七戸城跡、ひげ塚公園、見町観音堂、銀南木を見学し、説明を受けた。
------	------	---	------	---

事業効果	年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
	項目(単位)			
	参加者: 教職員	14人	14人	10人
	教育委員会	1人	1人	1人
	合計	15人	15人	11人

		評価項目	評価
事業評価		①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い                  B 町民ニーズは低い(ない)	A
		②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである                  B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他	A
		③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 成果は上がっている                  B 成果は上がっていない	A
		④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている                  B 公平に配分されていない	A
		⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない                  B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他	A
		⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%)                  B (50%)                  C (25%) 優先性が高い                  低い	A
	評価の説明	初任者及び赴任してきた教職員を対象にした研修で、町内の文化財等を実際に見学し、教育課題の研究や学習指導に役立てることに成果を上げた。	

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他(                  )	教材となる文化財等が多数存在するため、活用し、研修内容をさらに充実させる。
----------	--	---------------------------------------



## 事業評価シート

事業細目番号	2(1)②	担当課	生涯学習課	担当者	町屋 壮太郎
事業名	放課後子ども教室推進事業				

  

事業費	年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	
	決算額(千円)	1,525	1,480	1,307	
	財源内訳	国・県支出金			730
		その他			
		町債			
	一般財源	1,525	1,480	577	

  

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	<input type="checkbox"/> 内容
	地域の人材を活用した学習・スポーツ・文化活動等を実施し、放課後に子どもたちが安心して活動できる場の確保を図るとともに子どもたちの健全育成を目指す。	放課後対策事業の総合的な調整役を担う地域コーディネーターを配置。 ・活動の補助を担う教育活動サポーターを配置。 ・放課後子ども総合プラン指導員等研修会に参加。 ・子どもの居場所づくり検討委員会の設置。 ・軽スポーツ、習字教室、将棋教室等、各種体験活動を実施した。 ・NPO法人事業「アフタースクールプログラム」を活用し「いのちによりそう、看護師」を実施。

  

事業効果	年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
	項目(単位)			
	のべ開催日数	79	73	63
	のべ児童参加者数	1,878	1,841	1,392
	地域コーディネーターの配置者数	2	1	1
	教育活動サポーターの配置者数	4	3	3

  

事業評価	評価項目		
	①必要性(町民が必要としていますか)	A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)	A
	②妥当性(町が行うべきですか)	A 町が行うべきである (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他	A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか)	A 成果は上がっている B 成果は上がっていない	A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)	A 公平に配分されている B 公平に配分されていない	A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)	A コスト削減の余地はない (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他	A
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)	A (75%) 優先性が高い	A
	B (50%) 低い		
評価の説明	令和元年度はNPO法人事業の「アフタースクールプログラム」を活用し、活動の充実を図った。開催日数・参加人数を見ると町民ニーズは高い。各種体験活動により、放課後の活動の充実につながっている。コストについては、体験活動の種類を増やしてほしいという児童・保護者からの要望を実現させるとすると削減は難しい。		

  

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他( )	現在行っている体験活動をより充実させることや、新たなプログラムを導入することなどで、児童・保護者のニーズを維持できるかどうか事業継続のポイントになる。本事業は地域コーディネーター・教育活動サポーターの担う役割が大きいため、引き続き人材の発掘及び、各種研修の充実に努める。
----------	---	---

**事業評価シート**

<small>事業細目番号</small>	2(1)③	<small>担当課</small>	生涯学習課	<small>担当者</small>	豊川 直樹
<small>事業名</small>	異文化交流事業				

事業費	年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	
	決算額(千円)	832	1,234	1,148	
	財源内訳	国・県支出金			453
		その他		1,000	270
		町債			
一般財源		832	234	425	

<input type="checkbox"/> 目的	<input type="checkbox"/> 内容
学校教育以外にも外国文化に触れる機会を提供し、異文化への理解とさらなる学習意欲の向上を図り、国際化に対応できる人材の育成に貢献する。	①イングリッシュデイ 小学生を対象に7月23日に南公民館で、8月8日に中央公民館において、外国人講師1名により実施した。参加者延べ29名に対して、英語を使ったゲーム等を実施し、英語でのコミュニケーションを楽しんだ。 ②イングリッシュキャンプ 中学生を対象に、9月21日から9月23日の3日間、福島県ブリティッシュヒルズに派遣した。参加者は8名で英語のみのレッスンを受けるなど、語学力の向上を図るとともに、英国の文化や食事を体験する機会を提供した。

事業効果	年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
	項目(単位)			
	イングリッシュデイ参加者数	25	12	29
	イングリッシュキャンプ参加者数	11	10	8

事業評価	評価項目		
	①必要性(町民が必要としていますか)		
	A 町民ニーズは高い	B 町民ニーズは低い(ない)	A
	②妥当性(町が行うべきですか)		
	A 町が行うべきである	B 町が行う必要性は薄れている(ない)	A
	(Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他		
	③有効性(期待された効果は上がっていますか)		A
A 成果は上がっている	B 成果は上がっていない		
④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)		A	
A 公平に配分されている	B 公平に配分されていない		
⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)		A	
A コスト削減の余地はない	B コスト削減の余地はある		
(Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他			
⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)		A	
A (75%)	B (50%)	C (25%)	
優先性が高い	低い		
評価の説明	事業完了時の参加者アンケートでは「英語を話してみる勇氣を持たた」「参加者と仲良くなり良い経験になった」などの意見が多数あり、高い満足度であったという結果を得た。さらに、子どもたちの感想から、当事業をきっかけに外国文化への関心の高まりや、外国人に積極的に接しようとする姿勢の変化が見受けられたので事業実施の効果は高い。		

今後の取組・課題	<input type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引き続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他( )	令和2年度に小学校3年生から英語の授業が導入されるため、英語学習の早期対策が求められている。受験及び進学に必須である英語に対する苦手意識を解消するため「楽しく英語を学ぶ」機会を継続して開催することが必要である。また、英語を学び直したい社会人が潜在的にいる可能性があるため、生涯学習の一環として社会人向け講座の開催を検討しても良いと思われる。
----------	---	--

## 事業評価シート

事業細目番号	2(1)④	担当課	生涯学習課	担当者	豊川 直樹
事業名	国際交流推進事業				

事業費	年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
	決算額(千円)		4,271	135
財源内訳	国・県支出金			1,397
	その他	1,200		1,030
	町債			
	一般財源	3,071	135	1,059

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	中学生を海外に派遣し、英語学習や国際理解への興味・関心を高め、コミュニケーション力を育むとともに、国際交流と国際親善を深め、国際化に対応できる人材の育成に貢献する。	<input type="checkbox"/> 内容	令和元年度は、12月21日から12月25日に中学生10人を台湾へ派遣。生徒は高雄市明華国民中学校の生徒との交流を通してグローバルな感性を養った。
------	-----------------------------	--	-----------------------------	--

事業効果	年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
	項目(単位)			
参加者数		11	36	10

事業評価	評価項目		
	①必要性(町民が必要としていますか)	A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)	B
②妥当性(町が行うべきですか)	A 町が行うべきである (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他 B 町が行う必要性は薄れている(ない)	A	
③有効性(期待された効果は上がっていますか)	A 成果は上がっている B 成果は上がっていない	B	
④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)	A 公平に配分されている B 公平に配分されていない	A	
⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)	A コスト削減の余地はない (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他 B コスト削減の余地はある	B (エ)	
⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)	A (75%) 優先性が高い B (50%) C (25%) 低い	B	
評価の説明	参加した中学生からは「ホームステイ先の家族と仲良くなった」「現地で日本語や英語を話せる人が多かった」などの意見があったほか、台湾の文化に触れたり人と交流したりして新たな発見があったという声があった。中には台湾での食事が口に合わず、改めて日本食の良さが分かったという正直な感想もあった。外から日本を客観的に見ることで改めて自分が住んでいる地域の良さを知ることや、日本と台湾との歴史的な関りを知る意味でも貴重な経験になったと考えられる。一方、中学生にとっての最優先課題は受験に必須の英語を習得することでありイングリッシュデイ・キャンプに注力した方が良いと考え効率性をBとした。また、台湾派遣への費用が高額で県等の助成金が無ければ事業を継続するのが難しいことから優先性をBとした。		

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他( )	令和2年度は町が台湾の明華国民中学校関係者を受け入れる予定である。台湾への中学生派遣の際には現地の方々にお世話になったので、おもてなしの心をもって細やかな気配りができるように地元の体制を構築することが必要である。また、5年間の事業の最後の年に当たるので、これまでの事業の総合的な評価を行い、今後の取り組みについて検討することが必要である。
----------	--	---

# 事業評価シート

事業細目番号	2(2)①	担当課	中央公民館	担当者	中村真理
事業名	成人式開催事業				

事業費	年度		平成29年度	平成30年度	令和元年度
	決算額(千円)			466	531
財源内訳	国・県支出金				
	その他				
	町債				
	一般財源			466	531

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	町の将来を担う新成人の門出を祝うとともに、成人としての自覚を促し、さらなる成長を期する。	<input type="checkbox"/> 内容	①式典(国歌斉唱、町民憲章唱和、式辞、記念品贈呈、誓いの言葉) ②記念撮影 ③思い出ムービー上映

事業効果	年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
	項目(単位)			
対象者数		181	222	153
参加者数		124	128	89
参加率		69%	58%	58%

事業評価項目		評価
事業評価	①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)	A
	②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他	A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 成果は上がっている B 成果は上がっていない	A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている B 公平に配分されていない	A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他	A
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い	A
評価の説明	式典は静粛かつ厳粛に行われた。また、式典後に思い出ムービーを上映したことにより、小学校や中学校での思い出に触れ、印象に残るものになった。 式典には、成人としての自覚をもって臨んでおり、成果は上がっている。	

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input checked="" type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他( )	新成人にとって、より思い出に残る成人式となるよう、新成人を中心とする実行委員会を組織し、企画・運営できる体制を整備したい。 町主催の式典であることから、総務課への所管替えを検討するべきだと思う。
----------	---	--



# 事業評価シート

事業細目番号	2(3)②	担当課	生涯学習課	担当者	町屋 壮太郎
事業名	青少年育成七戸町民会議				

事業費	年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	
	決算額(千円)	94	47	81	
	財源内訳	国・県支出金			
		その他			
		町債			
一般財源	94	47	81		

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的 子どもの安全・安心を守る地域力の向上を図り、犯罪を寄せ付けない連携した地域社会を目指すとともに、地域全体で子どもを見守り・育てる意識や気運の醸成を図る。	<input type="checkbox"/> 内容 青少年の健全育成のため町内の関係諸機関及び団体と連携し、次の事業を行った。 ・8月22日～28日に町内の小学校、中学校及び高等学校の校門前等であいさつ運動を行い、延べ396名が参加した。 ・11月6日に七戸中央公民館において、青少年健全育成研修会を開催し、弘前大学生涯学習教育研究センター 深作拓郎氏による講演、「子どもの育ちと地域社会」を行い、58名が参加した。
------	---	---

事業効果	年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
	項目(単位)			
	あいさつ運動 参加者数	454	483	396
	青少年健全育成者研修会 参加者数	46	55	58

事業評価	評価項目				
	①必要性(町民が必要としていますか)	A 町民ニーズは高い	B 町民ニーズは低い(ない)	B	
	②妥当性(町が行うべきですか)	A 町が行うべきである (Bの場合) (ア)国・県が行うべき	B 町が行う必要性は薄れている(ない) (イ)民間で実施可能 (ウ)その他	A	
	③有効性(期待された効果は上がっていますか)	A 成果は上がっている	B 成果は上がっていない	B	
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)	A 公平に配分されている	B 公平に配分されていない	A	
	⑤効率性(コスト削減の余地はありますか)	A コスト削減の余地はない (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託	B コスト削減の余地はある (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他	A	
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)	A (75%)	B (50%)	C (25%) 低い	B
	評価の説明	毎年継続しているあいさつ運動は、令和元年度では延べ396名と多数参加しているため、犯罪を寄せ付けない連携した地域社会を目指すという点に限っては、一定の成果があると考える。 ただし、研修会については、毎年一般町民の参加者が少ない点を見ると町民ニーズが高いとは言えないが、地域全体で子どもを見守り・育てる意識や気運の醸成を図るといった目的が掲げられていることから、町民の関心を高める工夫も必要である。			

今後の取組・課題	<input checked="checked" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他( )	今後も青少年を取り巻く環境が変化する中で、町民のニーズに合った研修内容を企画・立案する必要がある。また、その内容や情報を町民会議会員のみならず、町民と共有出来るような環境づくりや取組みを行っていく。
----------	---	---

# 事 業 評 価 シ ー ト

事業細目番号	3(1)①	担当課	生涯学習課	担当者	豊川 直樹
事業名	町立美術館の指定管理委託事業				

事業費	財源内訳	年 度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
		決算額(千円)	24,307	24,955	25,906
国・県支出金			19,100		
その他					
町 債					
一般財源	24,307	24,955	6,806		

事業概要	□ 目的	□ 内容
	美術館等の管理運営にあたって、自らの創意工夫を活かし、美術館等の入館者に対するサービスの向上及び管理経費の削減を図り、町民芸術文化の一層の増進を図ることを目的とする。	①入館の許可に関する事 ②入館料の収受に関する事 ③設備及び備品等の維持管理に関する事 ④事業計画に基づいた各種事業の運営に関する事 ⑤町長のみの権限に属さないその他の管理運営に関する事務

事業効果	年 度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
	項目(単位)			
入館者数		15,618	15,456	25,642

事業評価	評 価 項 目		目	
	①必要性(町民が必要としていますか)	A 町民ニーズは高い	B 町民ニーズは低い(ない)	A
②妥当性(町が行うべきですか)	A 町が行うべきである	B 町が行う必要性は薄れている(ない)	B	
③有効性(期待された効果は上がっていますか)	A 成果は上がっている	B 成果は上がっていない	A	
④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)	A 公平に配分されている	B 公平に配分されていない	A	
⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)	A コスト削減の余地はない	B コスト削減の余地はある	A	
⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)	A (75%)	B (50%)	C (25%)	A
	優先性が高い		低い	

評価の説明	令和元年度は特別展として「時を超えても花ひらく 椿はTSUBAKI」「模型のタミヤがやってきたPART2」「第19回鷹山賞児童作品展」「第79回国際写真サロン展」を開催したほか、当美術館開館25周年を記念して開催した「字一が描いた蝶展」ではクラウドファンディングを活用した画集の発刊や蝶をテーマにした活動など新たな事業にも取り組んだ。入館者数は対前年度で約1万人の増であるが、タミヤ展の約1万9千人の来場者によって大きく伸びた。年々、指定管理料が増えていることから経費の削減に努めるとともに、来館者数を増やす取り組みが必要である。
-------	---

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他( )	学芸員や教育普及員の研修などを実施したり、避難訓練も複数回実施するなど、ソフト面でのサービスの充実に努め、全体的な美術館の質の向上に繋がった。今後も継続して指定管理制度による美術館経営が必要であると考え。一方、指定管理者の自主事業である特別展開催による累積赤字が平成30年度末において800万円を超え短期借入などしていたが、タミヤ展の収益によって解消された。近年、特別展に係る費用が上がっているため開催のリスクが大きくなっているが、集客力のある催しを実施するなどの工夫が必要と思われる。
----------	--	---

# 事業評価シート

事業細目番号	3(1)②	担当課	生涯学習課	担当者	古屋敷 栞
事業名	文化芸術鑑賞事業				
事業費	年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	
	決算額(千円)	1,077	1,240	972	
	財源内訳				
	国・県支出金				
	その他 町債 一般財源	1,077	1,240	972	
事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	子どもたちが個性豊かで魅力ある地域社会において、潤いのある豊かな生活を営むことができるよう、文化・芸術、異文化を体験することで興味を持つきっかけをつくり、更には子ども自身の創造的な能力を高めることを目的とする。		<input type="checkbox"/> 内容	町内のこども園、保育園、小中学校を対象とし、文化・芸術に寄与する事業の開催および芸術鑑賞・体験を実施。 人形劇鑑賞2回、演劇鑑賞1回、マーチング教室1回、絵画教室7回、ダンス教室10回、体操教室18回、音楽ワークショップ2回、日舞教室6回、茶道教室11回、パルレアート教室1回、インプロビゼーション1回 ……計60回
	事業効果	年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
項目(単位)	鑑賞者数	1,419	2,750	2,287	
事業評価	評価項目				
①	必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)				A
②	妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他				A
③	有効性(期待された効果は上がっていますか) A 成果は上がっている B 成果は上がっていない				A
④	公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている B 公平に配分されていない				A
⑤	効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他				A
⑥	優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い				A
評価	評価の説明	普段触れる機会が少ない様々な芸術や文化を間近で触れることができ、非常に有意義な事業になっている。当事業をきっかけに芸術関係の習い事を始めたケースもあり、成果は上がっている。			
今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他( )				
	当事業は総合戦略の中の「教育環境の強化など子育て環境の充実」に位置づけられている。町内の全こども園、保育園で芸術・文化の教育に取り組んでおり、毎年実施している教室のほか、県外講師を招いた新たな体験を取り入れている園もあり、ニーズが上がっていることから、今後も同様の体験事業を実施する。				

# 事 業 評 価 シ ー ト

事業細目番号	3(1)③	担当課	生涯学習課	担当者	古屋敷 栞
事業名	七戸町民文化祭開催事業				

事業費	年 度		平成29年度	平成30年度	令和元年度
	決算額(千円)		2,710	2,506	966
	財源内訳	国・県支出金			
		その他	710	710	
		町 債			
一般財源		1,991	1,796	966	

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	<input type="checkbox"/> 内容
	文化団体並びに町民が一体となり、文化や芸術活動など、日頃の成果を発表することで、地域の文化振興を図る。	七戸町民文化祭実行委員会を組織し実施した。 期日：令和元年10月26日(土)、27日(日) 場所：七戸町屋内スポーツセンター(文化部門のみ) 内容：舞台発表、作品展示、軽スポーツ体験コーナー

事業効果	年 度		平成29年度	平成30年度	令和元年度
	項目(単位)				
	参加団体数		文化部門75、農林部門13	文化部門77、農林部門17	文化部門76
	入場者数		2,069	1,390	1,395

		評 価 項 目			
		①	②	③	
事業評価	①必要性(町民が必要としていますか)	A 町民ニーズは高い	B 町民ニーズは低い(ない)		A
	②妥当性(町が行うべきですか)	A 町が行うべきである	B 町が行う必要性は薄れている(ない)		A
		(Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他			
	③有効性(期待された効果は上がっていますか)	A 成果は上がっている	B 成果は上がっていない		B
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)	A 公平に配分されている	B 公平に配分されていない		A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)	A コスト削減の余地はない	B コスト削減の余地はある		B
	(Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託	(エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他		(イ)	
⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)	A (75%)	B (50%)	C (25%)	A	
	優先性が高い		低い		
評価の説明	令和元年度から文化部門のみの1部門体制となり、1つの会場での実施となった。本事業は町民が日頃の活動の成果を披露することができる唯一の場であり、町の文化振興のために必要な事業である。文化部門の記念品の簡素化によりコスト削減は可能である。				

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他( )	文化部門のみ単独開催となったが、入場者数に大きな変動はみられなかった。出展・出演団体からのニーズは高いため、団体の協力を得ながら魅力あるイベントづくりをしていく必要がある。
----------	--	--

# 事業評価シート

事業細目番号	3(2)①	担当課	世界遺産対策室	担当者	相馬 和徳
事業名	世界文化遺産登録に向けた取り組み				

事業費	年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
	決算額(千円)		3,764(内繰越3,510)	9,625
財源内訳	国・県支出金			14,366
	その他			
	町債			46,700
	一般財源		3,764(内繰越3,510)	9,625

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	<input type="checkbox"/> 内容
	国史跡二ツ森貝塚が世界文化遺産登録の構成資産となっていることから、青森県などと連携を図り登録を目指す。また登録に向けて町民の機運を高める事業を実施する。	PR活動(PRポスター原画募集、製作、町民文化祭出展等) 史跡二ツ森貝塚ガイダンス施設整備 二ツ森貝塚史跡公園の見晴らし台説明板貼替え 世界遺産登録推進講座、出前講座、ジュニアボランティアガイド養成講座の開催 景観保全用地の買上げ

事業効果	年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
	項目(単位)			
見学者(推定)		約1000人	約1000人	約1000人
プレハブ見学日誌記帳者		144人	380人	645人

事業評価	評価項目		評価	
	①必要性(町民が必要としていますか)	A 町民ニーズは高い	B 町民ニーズは低い(ない)	A
②妥当性(町が行うべきですか)	A 町が行うべきである	B 町が行う必要性は薄れている(ない)	A	
③有効性(期待された効果は上がっていますか)	A 成果は上がっている	B 成果は上がっていない	A	
④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)	A 公平に配分されている	B 公平に配分されていない	A	
⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)	A コスト削減の余地はない	B コスト削減の余地はある	B	
⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)	A (75%)	B (50%)	C (25%)	A
評価の説明	世界文化遺産登録に向けた取り組みにより、国内推薦が決定し、推薦書がユネスコに提出された。ガイダンス施設の整備については、初年度の整備事業が完了し、次年度の展示整備事業の準備が整った。登録の機運を高める事業を実施し、おおむね好評を得たものの、各種講座については、社会教育事業としての開催も可能と考えられることから、事業の統合・連携について検討する余地がある。			

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input checked="" type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他( )	世界遺産登録推薦書がユネスコに提出されたことから、イコモスの現地審査に向け引き続き、県及び関係市町と連携し対応をしていくことになる。二ツ森貝塚のガイダンス施設については、開設に向けた準備を着実に進めていく必要がある。史跡来訪者の受け入れの要となるボランティアガイドの養成が遅れており、引き続き強化していかなければならない。また、世界遺産登録後の講座等の事業の在り方について検討する必要がある。
----------	---	--

# 事 業 評 価 シ ー ト

事業細目番号	3(2)②	担当課	世界遺産対策室	担当者	相馬 和徳
事業名	二ツ森貝塚史跡公園管理				

事業費	財源内訳	年 度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
		決算額(千円)	799	939	1,092
	国・県支出金				
	その他				
	町 債				
	一般財源	799	939	1,092	

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的 二ツ森貝塚史跡公園と史跡買上げ地の維持管理	<input type="checkbox"/> 内容 史跡公園駐車場・トイレ・プレハブの清掃、復元竪穴住居の薫蒸、園内の草刈り作業等の業務委託。 史跡買上げ地の維持管理(草刈)の業務委託。
------	--	---

事業効果	年 度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
	項目(単位)			
	見学者(推定)	約1000人	約1000人	約1000人
	プレハブ見学日誌記帳	144人	380人	645人

事業評価	評 価 項 目		評 価
	①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い      B 町民ニーズは低い(ない)		A
	②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである      B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合)    (ア)国・県が行うべき    (イ)民間で実施可能    (ウ)その他		A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 成果は上がっている      B 成果は上がっていない		A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている      B 公平に配分されていない		A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない      B コスト削減の余地はある (Bの場合)    (ア)受益者負担      (イ)事業の簡素・効率化      (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携      (オ)適切な財源の選択      (カ)その他		B (イ)
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%)      B (50%)      C (25%) 優先性が高い      低い		A
評価の説明	史跡公園は、「北海道・北東北の縄文遺跡群」の構成資産である二ツ森貝塚の見学の場として、また町内小中学校の社会科見学の場として活用されており、維持管理の継続が必要である。維持管理区域を地域団体と町とに区分し、地域団体区域を地元住民団体との協働による管理により委託した。町管理区域の草刈り作業については、作業6回分を民間業者に委託し、職員による作業を1回行った。また、史跡買上げ地は、年3回の作業を地元住民団体に委託した。		

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input checked="" type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他(                      )	町管理区域の草刈り作業は月1回のべ7回実施したが、草が伸長が著しい夏場では、作業間隔の調整が必要であり、予算の確保により作業回数を増やすなど適切な管理に努める。 委託業務の内容について、引き続き検討する必要がある。
----------	--	--

# 事 業 評 価 シ ー ト

事業細目番号	3(2)③	担当課	世界遺産対策室	担当者	相馬 和徳
事業名	史跡土地買上げ事業				

事業費	財源内訳	年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
		決算額(千円)	53,606	35,530	52,981
	国・県支出金	42,883	28,323	42,384	
	その他				
	町債				
	一般財源	10,723	7,207	10,597	

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	国史跡二ツ森貝塚を保護するため土地の買上げを行う。	<input type="checkbox"/> 内容	土地の買上げ及び移転補償を行うため、不動産鑑定及び建物等移転補償費調査委託を行い、適正な土地価格と補償額で買上げを行う。  史跡二ツ森貝塚: 3, 121. 51㎡(3筆)
------	-----------------------------	---------------------------	-----------------------------	--

事業効果	年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
	項目(単位)	取得面積	4,854.22㎡	6,620.64㎡
	公有化率	52.95%	58.57%	61.21%

事業評価	評 価 項 目			評 価
	①必要性(町民が必要としていますか)	A 町民ニーズは高い	B 町民ニーズは低い(ない)	A
	②妥当性(町が行うべきですか)	A 町が行うべきである	B 町が行う必要性は薄れている(ない)	A
		(Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他		
	③有効性(期待された効果は上がっていますか)	A 成果は上がっている	B 成果は上がっていない	A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)	A 公平に配分されている	B 公平に配分されていない	A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)	A コスト削減の余地はない	B コスト削減の余地はある	A
	(Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託	(エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他		
⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)	A (75%)	B (50%)	C (25%)	A
	優先性が高い		低い	
評価の説明	史跡二ツ森貝塚は、平成27年度に国史跡の追加指定を受け、平成27年度から毎年計画的に土地の買上げを実施しており、公有化率が向上した。買上げにあたっては、所有者の意向を確認し緊急性を考慮し計画的に事業を行い、令和元年度をもって第1期事業が完了となる。			

今後の取組・課題	<input type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input checked="" type="checkbox"/> 完了 <input checked="" type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他( )	史跡二ツ森貝塚の公有化については、5カ年の第1期事業分を完了した。今後も遺跡保護のため公有化を進めることになるが、次期事業開始に向けて再度所有者の意向を確認しながら計画することになる。
----------	---	--

# 事業評価シート

事業細目番号	3(2)④	担当課	生涯学習課	担当者	田村 教男
事業名	国指定有形民俗文化財の保管				

事業費	年度	平成29年度		平成30年度		令和元年度	
		決算額(千円)	1,596	140	140	140	
財源内訳	国・県支出金						
	その他						
	町債						
	一般財源	1,596		140		140	

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	国指定重要有形民俗文化財である「南部七戸見町観音堂庶民信仰資料」と「南部七戸小田子不動堂奉納絵馬」、ならびに町指定有形民俗文化財である「小田子不動堂庶民信仰資料」について、文化財保護法により、適切な管理のもと保存・活用することを目的とする。	<input type="checkbox"/> 内容	①資料借用の契約ならびに賃借料の支払い(見町観音堂、小田子不動堂共に7万円) ②絵馬利用行為の申請受付 ③絵馬の保護看守 ④所有者、管理団体(町)、施設管理受託者(公益財団法人鷹山宇一記念美術振興財団)との懇談会の実施
------	-----------------------------	--	-----------------------------	--

事業効果	項目(単位)	平成29年度		平成30年度		令和元年度	
		保管絵馬数	542	542	542		

事業評価	評価項目		評価
	①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)		
②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他			A
③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 成果は上がっている B 成果は上がっていない			A
④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている B 公平に配分されていない			A
⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他			A
⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) 優先性が高い A (75%) B (50%) C (25%) 低い			A
評価の説明	施設管理受託者の公益財団法人鷹山宇一記念美術振興財団により、適切に管理され、町民に対する公開も適切になされている。		

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他( )	今後も文化財保護法に則り、適切な管理が求められる。特に絵馬の燻蒸処理について、青森県立郷土館が受入をしなくなったことから、必要な予算措置を講じ、定期的に行う必要がある。
----------	--	--

## 事 業 評 価 シ ー ト

事業細目番号	3(3)①	担当課	世界遺産対策室	担当者	鳥谷部久美子
事業名		七戸町郷土芸能保存会支援事業			

事業費	年 度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	
	財源内訳	決 算 額(千円)	330	275	275
		国・県支出金			
		そ の 他			
		町 債			
	一 般 財 源	330	275	275	

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	<input type="checkbox"/> 内容
	伝統芸能及び郷土芸能の保護と育成を目的に、町指定無形民俗文化財である神楽等の後継者育成や普及、郷土芸能発表会の開催等、町内11団体の保存活動の支援を行う。	郷土芸能保存会補助金275千円(25千円×11団体) 保存会活動内容 ・郷土芸能発表会の開催 ・各種イベントへの出演 支援事務の内容 ・保存活動費の補助 ・イベント主催者との連絡調整 ・保存等に関する助成事業の情報提供

事業効果	年 度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	
	項目(単位)				
	加入団体数	11	11	11	11
加入団体会員数	225	206	210	210	

事業評価	評 価 項 目			
	①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い                      B 町民ニーズは低い(ない)			A
	②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである                      B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他			A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 効果は上がっている                      B 効果は上がっていない			B
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている                      B 公平に配分されていない			A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない                      B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他			A
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%)                      B (50%)                      C (25%) 優先性が高い                      低い			A
評価の説明	郷土芸能発表会は加入団体が協力して運営を行い、盛況に終わったが、少子高齢化などの社会環境の変化によって、郷土芸能の保存と伝承が厳しくなっている状況である。支援補助金額は各団体一律であるが、活動の一助になっている。			

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他(                      )	<p>後継者育成が一番の課題である。少子高齢化、趣味や娯楽の多様化により、郷土芸能への興味関心は低く、その存続が危ぶまれている。今後、学校行事や放課後子ども教室と連携するなど、地域を限定しないアプローチによる後継者探しが求められる。</p> <p>各団体の現状を把握し、どのような支援ができるか検討する必要がある。</p>
----------	---	---

**事 業 評 価 シ ー ト**

事業細目番号	3(4)①	担当課	世界遺産対策室	担当者	相馬 和徳
事業名	文化交流センターの活用の充実				

事業費	年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
	決算額(千円)	253	692	241
	財源内訳			
	国・県支出金			
	その他			
	町債			
	一般財源	253	692	241

事業概要	□ 目的	□ 内容
	文化交流センターは、歴史民俗資料展示施設としてのほか、文化財の保管場所になっており、その活用を図る。	文化交流センターの2階の一部を歴史民俗資料展示室とし、当町の文化財資料の公開活用を図る。 南公民館の西野分館の機能や避難場所になっているため、施設の維持管理を行う。

事業効果	年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
	項目(単位)			
	利用者数	213	235	355

事業評価	評価項目			評価
	①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)			B
	②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他			A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 効果は上がっている B 効果は上がっていない			A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている B 公平に配分されていない			A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他			A
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い			C
評価の説明	文化交流センターは平成17年度から児童館施設として、また歴史民俗資料展示施設として文化財の保管保存、さらに体育館施設からなる複合施設として供用を開始したが、児童館廃止後は常勤者もいなくなり、施設の公開活用が難しくなっている。 西野分館の活動の場所として、年10回程度利用されているほかには、一般の利用はない。 令和元年度は、世界遺産登録推進講座などの開設場所としたほか、視察研修の受け入れを行い利用者数が伸びた。			

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input checked="" type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他(                      )	歴史民俗資料展示施設として、歴史文化を紹介する事業の展開を引き続き実施する必要がある。 また、公民館分館や避難所、選挙投票所として老朽化した施設の維持管理を継続する必要がある。
----------	--	---

# 事業評価シート

事業細目番号	4(1)①	担当課	生涯学習課	担当者	上原子 翔琉
事業名	七戸町ジュニアスキースクール				

事業費	年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	
	決算額(千円)	120	120	120	
	財源内訳	国・県支出金			
		その他			
		町債			
	一般財源	120	120	120	

事業概要	□ 目的	□ 内容
	スキーの基本練習を通し、技術の向上とスキーの楽しさを体験するとともに、健康及び体力の増進を図ることを目的とする。 また、参加者同士が行動をともにすることにより、望ましい人間関係を育む。	対象 町内の小学生(1年～6年) 講師 七戸町スキークラブ員 回数 4回

事業効果	年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
	項目(単位)			
	参加者数(延べ人数)	340名	360名	304名

事業評価	評価項目	評価
事業評価	①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)	A
	②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他	A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 成果は上がっている B 成果は上がっていない	A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている B 公平に配分されていない	A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他	A
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い	A
評価の説明	アルペンスキーの講習会として町内の小学生を対象としており、雪国の冬期間のスポーツとして、また、他校の生徒との交流の場として、町民のニーズは高い。 また、スキークラブと連携し、継続した参加に向けた取組として、講習内容など改善が図られている。	

今後の取組・課題	■ 継続 □ 充実 □ 廃止 □ 縮小 □ 統合 □ 完了 □ 引続き見直し検討 □ その他( )	各小学校でもスキー教室は行っているが、その機会は少なく、町主催のスキー教室の継続は必要である。 また、よりウィンタースポーツに慣れ親しんでもらうため、スノーボード講習会の実施について、関係団体と引き続き協議を行う。 スキー教室の成果の場として開催する、スキー大会(町スキークラブ主催)への参加者増加に向けた検討を行う。
----------	---	---

# 事業評価シート

事業細目番号	4(1)②	担当課	生涯学習課	担当者	上原子 翔琉
事業名	町民スポーツ交流会				

事業費	年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
	決算額(千円)		204	160
財源内訳	国・県支出金			
	その他			
	町債			
	一般財源	204	160	113

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	町民に広くスポーツ・レクリエーション活動の場を提供し、健康保持、体力増進及び相互の交流を図り、生涯を通じたスポーツ活動の参加意欲の向上を図る。	<input type="checkbox"/> 内容	平成25年度より「七戸ギネスチャレンジ」と名称変更し、誰でも気軽に参加出来る種目とし、七戸独自の記録として毎年新記録を目指すと共に、スポーツの楽しさと健康増進を図り町民相互の親睦が図れるよう参加を募る。 対象 町民(個人、町内会、分館、スポ少単位) ※幼児から高齢者まで
------	-----------------------------	---	-----------------------------	---

事業効果	年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
	項目(単位)			
	七戸ギネスチャレンジ	5種目	5種目	5種目
		9団体 189名	10団体 176名	6団体 136名

事業評価	評価項目			評価
	①必要性(町民が必要としていますか)	A 町民ニーズは高い      B 町民ニーズは低い(ない)		A
	②妥当性(町が行うべきですか)	A 町が行うべきである      B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他		A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか)	A 効果は上がっている      B 効果は上がっていない		A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)	A 公平に配分されている      B 公平に配分されていない		A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)	A コスト削減の余地はない      B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他		A
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)	A (75%)      B (50%)      C (25%) 優先性が高い      低い		A
評価の説明	誰でも参加できる競技を取り入れ、競技時間も短縮するように努めた。また、参加しやすい種目を増やすことにより、スポーツへの参加意欲を高めている。 周知方法などを見直したが参加者が減少しているため、引き続き検討する必要がある。			

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input checked="" type="checkbox"/> 引き続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他( )	①地域間の交流のため、広く町民が参加できるよう工夫が必要である。 ②参加者が減少傾向にあるため、これまでの種目の再考及び魅力ある種目の創出を図ると共に、対象者の拡大や開催時期などを検討する。 ③スポーツ少年団にもさらに参加を呼びかけ、小学生間での交流を図る。
----------	--	---

# 事業評価シート

事業細目番号	4(1)③	担当課	生涯学習課	担当者	金澤 隆洋
事業名	体育協会加盟団体によるスポーツ大会				

事業費	年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
	決算額(千円)		4,088	3,833
財源内訳	国・県支出金			
	その他	2,318	2,067	2,113
	町債			
	一般財源	1,770	1,766	1,420

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	体育協会加盟団体による教室及び大会開催費に対する支援をすることで、地域スポーツ活動の普及・奨励に努める。各競技による通常の大会とは別に、広く町民を対象とした生涯にわたるスポーツライフの実現を図る。	<input type="checkbox"/> 内容	○体育協会加盟団体主催ナイターリーグ大会 (フットサル、バドミントン、バスケットボール、バレーボール) ○体育協会加盟団体主催大会等 (朝野球、ソフトテニス大会、剣道大会、ゲートボール大会、グラウンド・ゴルフ大会) ○体育協会加盟団体主催教室 (水泳教室、ジュニアベースボールスクール)
------	-----------------------------	--	-----------------------------	--

事業効果	年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
	項目(単位)			
教室・大会数		2教室等、13大会	2教室等、13大会	2教室等、9大会
参加者数(人)		2,550名	2,417名	1,781名

事業評価	評価項目		評価
	①必要性(町民が必要としていますか)	A 町民ニーズは高い	B 町民ニーズは低い(ない)
②妥当性(町が行うべきですか)	A 町が行うべきである	B 町が行う必要性は薄れている(ない)	A
	(Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他		
③有効性(期待された効果は上がっていますか)	A 効果は上がっている	B 効果は上がっていない	A
④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)	A 公平に配分されている	B 公平に配分されていない	A
⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)	A コスト削減の余地はない	B コスト削減の余地はある	A
	(Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他		
⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)	A (75%)	B (50%)	A
	優先性が高い	低い	
評価の説明	体育協会加盟団体のほぼすべてが、目的に沿った事業を展開できている。		

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他( )	新型コロナウイルス感染症の関係で大会を開催できない協会があり、今後、新型コロナウイルス感染症対策を講じて事業の継続と更なる充実を目指し、各加盟団体と連携を図っていく。 また、各加盟団体から課題並びに要望等を十分に聴き取り、事業の改善に努める。
----------	--	--

# 事業評価シート

事業細目番号	4(2)①	担当課	生涯学習課	担当者	富浦 奨平
事業名	青森県民駅伝競走大会				

事業費	年度		平成29年度	平成30年度	令和元年度
	決算額(千円)			898	932
財源内訳	国・県支出金			60	60
	その他				
	町債				
	一般財源			838	872

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	大会を通じて七戸町民の一体感を高めるとともに、スポーツ(陸上競技)に対する理解と関心を高め、活力ある町づくりとスポーツ振興を目的とする。	<input type="checkbox"/> 内容	県内全40市町村が参加し、青森市内の9区間を市の部・町の部・村の部でそれぞれ競う。町の部6位、総合15位の成績であった。 選手 ・一般男子 6人(一般 6人) ・中学生男子 4人 ・女子 4人(一般 2人 高校生 1人 中学生 1人) ・小学生男子 2人 ・小学生女子 2人
------	-----------------------------	--	-----------------------------	--

事業効果	年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
	項目(単位)	町の部 8位 総合 17位		町の部 5位 総合 13位
成績				

事業評価	評価項目			評価
	①必要性(町民が必要としていますか)	A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)		A
	②妥当性(町が行うべきですか)	A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他		A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか)	A 成果は上がっている B 成果は上がっていない		A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)	A 公平に配分されている B 公平に配分されていない		A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)	A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他		A
⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)	A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い		A	
評価の説明	町民が一体感を強めることができるスポーツイベントで、毎年入賞を目指し監督・コーチを中心に練習会や選考会等を開催し、選手の強化を図っており、県内トップクラスの選手も育成されている。			

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他( )	中学生以上女子区間を走る選手の確保が課題であり、監督及びコーチと連携し選手の発掘を行う。 今後も毎戸配布をするなど、広報活動に積極的に取り組み、新戦力の発掘及び県民駅伝大会の更なる周知を図る。
----------	--	---

# 事業評価シート

事業細目番号	4(2)②	担当課	生涯学習課	担当者	金澤 隆洋
事業名	体育協会補助事業				

事業費	財源内訳	年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
		決算額(千円)	1,829	1,859	1,771
	国・県支出金				
	その他	555	522	420	
	町債				
	一般財源	1,274	1,337	1,351	

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	体育協会及び加盟団体への活動支援	<input type="checkbox"/> 内容	体育協会及び加盟団体の活動(組織運営・事業等)に対する支援事業
------	-----------------------------	------------------	-----------------------------	---------------------------------

事業効果	年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
	項目(単位)	21団体	21団体	21団体
体育協会加盟団体数	581名	600名	610人	
体育協会加盟人数				

事業評価	評価項目		評価
	①必要性(町民が必要としていますか)	A 町民ニーズは高い      B 町民ニーズは低い(ない)	A
②妥当性(町が行うべきですか)	A 町が行うべきである      B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他	A	
③有効性(期待された効果は上がっていますか)	A 成果は上がっている      B 成果は上がっていない	A	
④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)	A 公平に配分されている      B 公平に配分されていない	A	
⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)	A コスト削減の余地はない      B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他	A	
⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)	A (75%)      B (50%)      C (25%) 優先性が高い      低い	A	
評価の説明	スポーツを通じた町の活性化を図るためには、体育協会の力が必要不可欠であり、組織運営上の支援としては最低限補助できている。		

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引き続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他( )	競技人口が減少傾向にあるため、指導者の育成や幼少期からの育成等、スポーツ活動を推進する人材育成に向けた取組みを、各加盟団体と協議、検討を行っていく。 また、自主事業として、各種講習会等の開催を検討し、体育協会の体力向上及び交流を図っていく。
----------	---	---

# 事業評価シート

事業細目番号	4(2)③	担当課	生涯学習課	担当者	上原子 翔琉
事業名	七戸町スポーツ少年団活動費補助事業				

事業費	年度		平成29年度	平成30年度	令和元年度
	決算額(千円)		1,921	1,840	2,030
	財源内訳	国・県支出金			
		その他			
		町債			
一般財源		1,921	1,840	2,030	

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	町民の健康維持・増進及び体力・競技力の向上、更には次世代を担う子どもたちへのスポーツの普及と健全育成を図るため、町内で子どものスポーツ活動を行う団体へ支援する。	<input type="checkbox"/> 内容	七戸町からスポーツ少年団へ補助 補助対象経費 報償費、旅費、需用費、役務費、使用料、賃借料、負担金等 ※食糧費、備品購入費、事務等の人件費、保険料、登録料は補助対象外

事業効果	年度		平成29年度	平成30年度	令和元年度
	項目(単位)				
	単位団・登録者数		18団 323名	18団 358名	19団 399名

事業評価	評価項目				評価
	①	必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)			A
	②	妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他			A
	③	有効性(期待された効果は上がっていますか) A 成果は上がっている B 成果は上がっていない			A
	④	公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている B 公平に配分されていない			A
	⑤	効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他			A
	⑥	優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い			A
評価の説明	地域主体のスポーツ少年団が活動する上で、活動費の補助や強化事業による支援は今後も必要である。活動費の補助や強化事業による支援により、各団体の活動の幅が広がり、団員数の増加につながっている。				

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他( )	スポーツ少年団を更に活性化していくために、さらなる団員の確保のための取り組みを本部役員及び各単位団長と協議し行っていく。 補助金の活用方法及び事業実績を踏まえ、補助対象経費や補助金額など交付要綱の見直しを検討する。
----------	--	--

# 事 業 評 価 シ ー ト

事業細目番号	4(2)④	担当課	生涯学習課	担当者	金澤 隆洋
事業名	体育協会大会派遣事業(郡総合・北奥羽・県民体育大会)				

事業費	年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	
	決算額(千円)	750	840	772	
	財源内訳	国・県支出金			
		その他			
		町債			
一般財源	750	840	772		

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	<input type="checkbox"/> 内容
	体育協会及び加盟団体が町代表として地区大会並びに上位大会出場機会を支援し、競技力向上と指導者の資質向上を目的とする。	上北郡総合体育大会・北奥羽総合体育大会・青森県民体育大会への参加に伴う費用の一部を補助する。 選手強化のため施設使用料の一部を補助する。

事業効果	年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
	項目(単位)			
	上北郡総合体育大会参加者数	12競技137名出場(2競技優勝/総合第4位)	14競技160名出場(4競技優勝/総合第4位)	15競技183名出場(5競技優勝/総合第4位)
	北奥羽総合体育大会参加者数	4競技28名出場/総合第3位	6競技64名出場/総合第4位	4競技51名出場/総合第4位
	青森県民体育大会参加者数	11種目123名出場/町の部11位	11種目124名出場/町の部第8位	11種目141名出場(2競技優勝/町の部第4位)
全国東北大会出場数	2団体(ゲートボール、ママさんバレー)		2団体(ハンドボール、ゲートボール)	

事業評価	評価項目			評価
	①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)			A
	②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他			A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 成果は上がっている B 成果は上がっていない			A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている B 公平に配分されていない			A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他			A
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い			A
評価の説明	町代表として出場する大会への派遣費であり、選手強化に伴う成果及び競技人口の維持増加や生涯スポーツ活動の推進につながっている。			

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他( )	町代表として出場する大会への派遣費であり、優勝する競技があるなど選手強化につながっていることから今後も予算確保に努める。
----------	--	--

# 事業評価シート

事業細目番号	4(2)⑤	担当課	生涯学習課	担当者	西野 康平
事業名	七戸町スポーツ大会等選手派遣補助事業(東北大会・全国大会)				

事業費	年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	
	決算額(千円)	960	2,347	1,271	
	財源内訳	国・県支出金			
		その他			
		町債			
一般財源		960	2,347	1,271	

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	<input type="checkbox"/> 内容
	上位大会出場機会を支援することで、競技力の向上・競技スポーツの振興、生涯スポーツ振興を目的とする。	町内スポーツ少年団及び体育協会加盟団体等が、予選を経て東北・全国大会に出場する場合の対象経費(交通費宿泊費等)を補助する。 県予選の有無や参加チーム(選手)数により補助率を設定。 (例: スポーツ少年団: 対象経費1/1、体育協会加盟団体: 対象経費1/2、一般関係: 対象経費1/3)

事業効果	年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
	項目(単位)			
	スポーツ少年団	6件 3団体 (23名)	12件 7団体 (47名)	9件 6団体 (38名)
	一般	4件 3団体 (15名)	7件 5団体 (49名)	3件 2団体 (22名)
		771,000円	1,210,000円	880,000円
		189,000円	1,137,000円	391,000円

事業評価	評価項目			評価
	①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い      B 町民ニーズは低い(ない)			A
	②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである      B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき      (イ)民間で実施可能      (ウ)その他			A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 成果は上がっている      B 成果は上がっていない			A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている      B 公平に配分されていない			A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない      B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担      (イ)事業の簡素・効率化      (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携      (オ)適切な財源の選択      (カ)その他			A
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%)      B (50%)      C (25%) 優先性が高い      低い			A
評価の説明	東北大会以上の大会参加を支援することにより、競技団体及び競技者の高いレベルでの競技力強化や生涯スポーツ活動の推進につながっている。 新型コロナウイルスの影響により、大会が中止となったため、前年度より補助件数や金額は減少しているが、各競技者の意識レベルの向上と競技力の強化のためには必要な事業である。			

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input checked="" type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他( )	平成30年度に補助金の対象となる大会の規模・大会参加条件等を考慮し、補助要綱を改正した。 申請状況等を踏まえながら、引続き必要に応じて補助対象経費及び補助金額の見直しを検討する。
----------	---	--

# 事業評価シート

事業細目番号	4(2)⑥	担当課	生涯学習課	担当者	西野 康平
事業名	健康増進生涯スポーツ普及事業				

事業費	年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	
	決算額(千円)	554	558	499	
	財源内訳	国・県支出金			
		その他			
		町債			
一般財源	554	558	499		

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	①町民の健康の維持増進・体力向上を目的に、子どもから高齢者まで参加しやすい軽スポーツの集いを実施し、地域スポーツ活動の普及・奨励を図る。 ②トップレベルの競技者の育成と指導者の確保を目的に、スポーツ指導者等講習会を実施し、競技者の競技力向上を図る。 ③総合型地域スポーツクラブ等の設立を目指し、スポーツ活動ができる環境づくりを支援し事業の充実を図る。	<input type="checkbox"/> 内容	七戸町の生涯スポーツの普及を図るため、下記の事業を実施する。 ①軽スポーツの集い ②スポーツ指導者等講習会 ③スポーツクラブ育成支援
------	-----------------------------	---	-----------------------------	---

事業効果	年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
	項目(単位)			
	軽スポーツ教室	50名参加	82名参加	109名参加
	スポーツ指導者等講習会	33名参加	23名参加	90名参加
スポーツクラブ育成支援	—	—	—	

事業評価	評価項目			評価
	①必要性(町民が必要としていますか)	A 町民ニーズは高い      B 町民ニーズは低い(ない)		A
	②妥当性(町が行うべきですか)	A 町が行うべきである      B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合)      (ア)国・県が行うべき      (イ)民間で実施可能      (ウ)その他		A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか)	A 成果は上がっている      B 成果は上がっていない		A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)	A 公平に配分されている      B 公平に配分されていない		A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)	A コスト削減の余地はない      B コスト削減の余地はある (Bの場合)      (ア)受益者負担      (イ)事業の簡素・効率化      (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携      (オ)適切な財源の選択      (カ)その他		A
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)	A (75%)      B (50%)      C (25%) 優先性が高い      低い		A
評価の説明	①軽スポーツの集い:参加しやすい軽スポーツを選択したことで、子どもから高齢者まで幅広い参加があり、健康増進や体力向上につながった。また、スポーツ吹矢が事業として定着してきたため、教室だけではなく、成果を発揮する場として大会を実施した。 ②スポーツ指導者等講習会:ミズノフィットネスインストラクター井上響氏を講師として開催し、スポーツには欠かせない準備運動やストレッチの意識向上を図ることができた。広く広報することで、昨年より参加人数を大幅に増やすことができた。 ③スポーツクラブ育成支援:協議会の際に、総合型地域スポーツクラブについて進捗状況を説明し、意見交換することで、現状の把握、課題の確認をすることができた。			

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他( )	町民に、スポーツができる環境を提供し、健康維持増進・体力向上を目的に継続する。 スポーツ推進委員会を中心に、参加しやすい種目等を検討し、事業の展開を図る。 また、参加者を更に増加させるため、大会等の開催を検討する。
----------	--	---

# 事 業 評 価 シ ー ト

事業細目番号	4(3)①	担当課	生涯学習課	担当者	西野 康平
事業名	スポーツ推進委員研修				

事業費	年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
	決算額(千円)	583	487	193
財源内訳	国・県支出金			
	その他			
	町債			
	一般財源	583	487	193

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	<input type="checkbox"/> 内容
	地域におけるスポーツ活動の普及と振興を図る人材を育成する。	地域住民のスポーツ事業の実施に係る連絡調整並びに町民に対するスポーツの実技指導、その他スポーツに関する指導及び助言を行う。また、講習及び研修会の実施やスポーツ活動の普及に努める。 また、推進委員の資質向上のため、積極的に研修会等へ参加する。

事業効果	年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
	項目(単位)			
委員数		11名	10名	12名
会議数(行事数)		15回	18回	15回

事業評価	評価項目		評価
	①必要性(町民が必要としていますか)	A 町民ニーズは高い      B 町民ニーズは低い(ない)	A
	②妥当性(町が行うべきですか)	A 町が行うべきである      B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他	A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか)	A 成果は上がっている      B 成果は上がっていない	A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)	A 公平に配分されている      B 公平に配分されていない	A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)	A コスト削減の余地はない      B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他	A
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)	A (75%)      B (50%)      C (25%) 優先性が高い      低い	A
評価の説明	スポーツ活動の普及並びに指導のため、各地区で開催される研修等に参加しスポーツに対する意識向上に努めている。町民スポーツレクリエーション祭を主催実施するなど軽スポーツの普及に努め、地域スポーツ推進に大きな役割を果たしている。		

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他( )	生涯スポーツの普及、事業の充実を図るため、軽スポーツの集い、スポーツ指導者講習会、町民スポーツレクリエーション祭を引き続き行う。 また、事業の効果を高めるため、東北大会や県主催の研修会へ参加し、委員の資質向上を図る。
----------	--	---

# 事業評価シート

事業細目番号	4(3)②	担当課	生涯学習課	担当者	金澤 隆洋
事業名	スポーツ顕賞表彰				

事業費	年 度		平成29年度	平成30年度	令和元年度
		決算額(千円)		294	206
財源内訳	国・県支出金				
	その他				
	町 債				
	一般財源		294	206	209

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	スポーツ活動において、顕著な成績を残した者、町民の健康福祉の増進に功労があった者又は広く町民の模範となるべき者を顕賞する。	<input type="checkbox"/> 内容	スポーツ顕賞(①スポーツ功労賞 ②スポーツ賞 ③スポーツ優秀賞 ④生涯スポーツ奨励賞)の顕賞を行う。各種団体、県内外の高校から推薦基準に基づき推薦を受け、七戸町スポーツ顕賞審議会にて審議し、顕彰者を決定する。
------	-----------------------------	---	-----------------------------	--

事業効果	年 度		平成29年度	平成30年度	令和元年度
		項目(単位)			
	スポーツ功労賞受賞者数		該当者なし	個人1名	個人1名
	スポーツ賞受賞者数		該当者なし	該当者なし	個人1名
	スポーツ優秀賞受賞者数		個人13名・団体1(20名)	個人9名	個人5名・団体1(13名)
	生涯スポーツ奨励賞受賞者数		個人9名	個人10名・団体2(19名)	個人1名・団体1(9名)

事業評価	評 価 項 目		評 価		
		①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い                  B 町民ニーズは低い(ない)		A	
	②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである                  B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他		A		
	③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 成果は上がっている                  B 成果は上がっていない		A		
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている                  B 公平に配分されていない		A		
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない                  B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他		A		
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%)                  B (50%)                  C (25%) 優先性が高い                                  低い		A		
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 5%;">評価の説明</td> <td>スポーツ活動で顕著な功績・成績のあった個人・団体を顕賞し、受賞者の功績を広く町民に周知することで、スポーツ活動への意欲・関心を高めるものであり、町のスポーツ振興へもつながっている。</td> </tr> </table>			評価の説明	スポーツ活動で顕著な功績・成績のあった個人・団体を顕賞し、受賞者の功績を広く町民に周知することで、スポーツ活動への意欲・関心を高めるものであり、町のスポーツ振興へもつながっている。
評価の説明	スポーツ活動で顕著な功績・成績のあった個人・団体を顕賞し、受賞者の功績を広く町民に周知することで、スポーツ活動への意欲・関心を高めるものであり、町のスポーツ振興へもつながっている。				

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引き続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他(                                  )	各賞の種目及び大会種類による推薦基準の見直しを行ったことから、各種団体及び関係者等への周知を図り、候補者の推薦を円滑に行う。また、必要に応じて推薦基準の見直しを行う。
----------	--	---

# 事業評価シート

事業細目番号	4(3)③	担当課	生涯学習課	担当者	大池 謙嗣
事業名	各種大会開催や合宿等の誘致				

事業費	年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
		決算額(千円)	0	0
財源内訳	国・県支出金			
	その他			
	町債			
	一般財源			

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	町内にある、スポーツ施設の利用促進を図ることを目的とする。	<input type="checkbox"/> 内容	各種大会及びイベント事業等の開催誘致。
------	-----------------------------	-------------------------------	-----------------------------	---------------------

事業効果	年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
		項目(単位)		
	大規模な大会・イベント集客数	七体/6月:商業祭 1,000人	七体/6月:商業祭 1,000人	七体/6月:商業祭 1,000人
	〃	七体/4月:桜花柔道大会 1,000人	七体/4月:桜花柔道大会 1,000人	七体/4月:桜花柔道大会 800人
	〃	七体/7月:防犯剣道大会 1,000人	七体/7月:防犯剣道大会 1,000人	七体/7月:防犯剣道大会 800人
	〃	七運/8、9月:野球県大会 各600人	七運/6~8月:野球東北・県大会 各400人	七運/6~8月:野球東北大会 各300人

事業評価	評価項目			評価
	①必要性(町民が必要としていますか)	A 町民ニーズは高い	B 町民ニーズは低い(ない)	A
	②妥当性(町が行うべきですか)	A 町が行うべきである	B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他	A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか)	A 効果は上がっている	B 効果は上がっていない	A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)	A 公平に配分されている	B 公平に配分されていない	A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)	A コスト削減の余地はない	B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他	A
⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)	A (75%)	B (50%)	C (25%)	A
評価の説明	規模の大きな大会・イベントを開催することで、施設の利用促進に繋がり、町の大きなPRにもなる。また、県・東北大会など、レベルの高い試合に接する機会を提供できる。			

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他( )	七戸体育館は耐震判定指標を満たしていないため、大会の開催等について利用を制限している。 各施設の利用状況や維持更新費等を踏まえ、施設の集約と整備を計画的に進めると共に、利用方法や料金体系等の見直しを検討する。 また、新型コロナウイルス感染防止策を講じ、大会や合宿の誘致に努め、施設の有効活用を図る。
----------	--	---



# 事業評価シート

事業細目番号	5(1)②	担当課	七戸中央公民館	担当者	中村真理
事業名	中央公民館(施設)事業				

事業費	年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
	決算額(千円)		35,452	35,040
財源内訳	国・県支出金			
	その他			
	町債			
	一般財源	35,452	35,040	31,230

<input type="checkbox"/> 目的 生涯学習活動の拠点機能	<input type="checkbox"/> 内容 公民館施設の利用促進を図り、各種学習機会の増進、文化団体育成支援を行う。
--	---

事業効果	年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
	項目(単位)			
公民館利用者数(人)		16,618 人	19,056 人	14,809 人

事業評価	評価項目		評価
	①必要性(町民が必要としていますか)	A 町民ニーズは高い	B 町民ニーズは低い(ない)
②妥当性(町が行うべきですか)	A 町が行うべきである	B 町が行う必要性は薄れている(ない)	B(イ)
③有効性(期待された効果は上がっていますか)	A 成果は上がっている	B 成果は上がっていない	A
④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)	A 公平に配分されている	B 公平に配分されていない	A
⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)	A コスト削減の余地はない	B コスト削減の余地はある	B(ウ)
⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)	A (75%)	B (50%)	C (25%)
評価の説明	町が行うべき地域づくり支援にとって、公民館施設は地域活動の拠点であることから、多様化している町民のニーズに対して、本事業は優先性が極めて高い。利用者数は微減となっているものの、本事業は安定しており定着していると評価する。		低い

今後の取組・課題 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他( )	今後は、住民ニーズと効果的な利用法・啓発方法を考慮し、利用率の向上に努めなければならない。 また、施設・設備について、定期的な保守点検を行い、利便性の高い施設・設備になるように努めなければならない。
--	--







# 事業評価シート

事業細目番号	5(1)⑥	担当課	七戸南公民館	担当者	八幡 博光
事業名	柏葉大学開設事業				

事業費	年度		平成29年度	平成30年度	令和元年度	
	決算額(千円)			80	65	71
財源内訳	国・県支出金					
	その他					
	町債					
	一般財源			80	65	71

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	高齢者の生き甲斐づくりの為、健康・教養・趣味を軸とした各講座を開催し、社会教育活動に参加する機会を作る。	<input type="checkbox"/> 内容	生涯学習のさらなる向上、充実を図る為、次のような講座を実施した。 ①開講式・講話②清掃奉仕活動③パークゴルフ教室④健康体操教室⑤町外施設等研修⑥芸術鑑賞⑦手工芸教室(ペーパークイリング教室)⑧グランドゴルフ教室⑨スポーツ吹き矢教室⑩閉講式・講話 全10講座
------	-----------------------------	--	-----------------------------	---

事業効果	年度		平成29年度	平成30年度	令和元年度
	項目(単位)				
講座実施数			10回	10回	10回
参加者人数			延人数296人	延人数169人	延人数182人

事業評価	評価項目		評価
	①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)		
②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他			A
③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 成果は上がっている B 成果は上がっていない			A
④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている B 公平に配分されていない			A
⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他			A
⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い			A
評価の説明	この事業は60歳以上の方が対象のため、高齢者のニーズに応えられるよう創意工夫をし、講座の選定と内容の充実を図っている。		

tg

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引き続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他(募集方法の見直しが必要)	高齢者のニーズに合った講座を企画立案し、高齢者の生き甲斐・社会教育活動に参加する場の提供に役立つよう努力していく。また、少ない男性の参加者を増やすための工夫が必要である。
----------	---	---

# 事 業 評 価 シ ー ト

事業細目番号	5(1)⑦	担当課	七戸南公民館	担当者	八幡 博光
事業名	七戸南公民館講座開設事業				

事業費	財源内訳	年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
		決算額(千円)	136	124	131
	国・県支出金				
	その他				
	町債				
	一般財源	136	124	131	

事業概要	□ 目的	□ 内容
	地域住民の知識、教養を高め、健康の増進を図り、心豊かで潤いのある生活を目指す。講座を契機とした自主活動・グループ作りに繋げる。	地域住民や時代の要請に応じた生涯学習講座を種類別、年齢層別に開催。令和元年度は計10講座を開催した。 (ピラティス教室、布ぞうり作り教室、思い出の歌教室、ゆかた着付け教室、クレイクラフト教室、エコクラフト教室、脳トレ教室、歴史教室、きもの着付け教室、そば打ち体験教室)

事業効果	年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
	項目(単位)			
講座数		9講座	7講座	10講座
参加者数		延人数289人	延人数295人	延人数263人

事業評価	評価項目		評価
	①必要性(町民が必要としていますか)	A 町民ニーズは高い      B 町民ニーズは低い(ない)	A
②妥当性(町が行うべきですか)	A 町が行うべきである      B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合)      (ア)国・県が行うべき      (イ)民間で実施可能      (ウ)その他	A	
③有効性(期待された効果は上がっていますか)	A 成果は上がっている      B 成果は上がっていない	A	
④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)	A 公平に配分されている      B 公平に配分されていない	A	
⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)	A コスト削減の余地はない      B コスト削減の余地はある (Bの場合)      (ア)受益者負担      (イ)事業の簡素・効率化      (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携      (オ)適切な財源の選択      (カ)その他	A	
⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)	A (75%)      B (50%)      C (25%) 優先性が高い      低い	A	
評価の説明	生涯学習事業の要とも言える事業であり、より一層の充実が望まれるため、優先性は高い。参加者の満足度は概ね高く、充実しているといえる。		

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他( )	いずれの講座も満足度は高く、内容は充実しているといえる。今後も町民のニーズに合わせ事業を展開していきたい。
----------	---	---



# 事 業 評 価 シ ー ト

事業細目番号	5(2)①	担当課	七戸中央公民館	担当者	中村真理
事業名	文化協会の育成支援事業				

事業費	財源内訳	年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
		決算額(千円)	800	800	720
	国・県支出金				
	その他				
	町債				
	一般財源	800	800	720	

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	<input type="checkbox"/> 内容
	文化団体相互の交流と、町の文化振興を目的に組織された七戸町文化協会の指導・支援。	各種文化団体で組織する七戸町文化協会の文化振興事業の指導及び支援。 七戸町文化協会主催事業(文化公演会)の支援。

事業効果	年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
	項目(単位)			
文化協会登録団体数(団体)		47団体	46団体	46団体
グリーンファーム演奏会参加数(人)				
文化講演会参加数(人)		150人	150人	150人

事業評価	評価項目		評価
	①必要性(町民が必要としていますか)	A 町民ニーズは高い      B 町民ニーズは低い(ない)	A
②妥当性(町が行うべきですか)	A 町が行うべきである      B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他	B(イ)	
③有効性(期待された効果は上がっていますか)	A 成果は上がっている      B 成果は上がっていない	A	
④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)	A 公平に配分されている      B 公平に配分されていない	A	
⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)	A コスト削減の余地はない      B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他	B(エ)	
⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)	A (75%)      B (50%)      C (25%) 優先性が高い      低い	B	
評価の説明	各種文化団体を統括する七戸町文化協会は重要であり、当該協会を有効的に継続するためには、財政面、ソフト面において支援が必要である。 当該協会の必要性・妥当性・公平性・優先性は妥当であると評価できるが、自立した団体としての活動を行えるように指導が必要である。		

今後の取組課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他( )	町の文化振興に対する必要性は大きいことから、継続して支援しなければならない。 今後は、効率性に重点を置き、コスト削減に向けて当該協会に対し、指導・支援しなければならない。 また、協会の自立を視野に入れた指導・支援も継続的に行っていく。
---------	--	---



# 事業評価シート

事業細目番号	5(2)③	担当課	七戸中央公民館	担当者	中村真理
事業名	中央公民館だより発行事業				

事業費	年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	
	決算額(千円)	0	0	0	
	財源内訳	国・県支出金			
		その他			
		町債			
	一般財源	0	0	0	

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	<input type="checkbox"/> 内容
	中央公民館の活動に関する多種多様な情報を提供し、意識高揚と啓蒙を図る。	中央公民館事業に関わる情報紙「中央公民館だより」を全世帯に配布する。 主に中央公民館講座のお知らせ並びに参加申し込みが内容となっている。

事業効果	年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
	項目(単位)			
	延べ毎戸配布数(世帯)	37,842 世帯	37,666 世帯	37,426 世帯

評価項目		評価
事業評価	①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)	A
	②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他	A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 効果は上がっている B 効果は上がっていない	A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている B 公平に配分されていない	A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他	A
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い	A
評価の説明	「中央公民館だより」は、啓発記事を掲載すると同時に、中央公民館講座等のお知らせ並びに参加申込みのための機関紙となっており、町と町民とのコミュニケーションにおいて有効な媒体であると評価できる。	

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他(                      )	今後も継続するとともに、町広報、町ホームページなど、新たな媒体の活用を検討する。
----------	--	--

# 事業評価シート

事業細目番号	6(1)①	担当課	七戸中央公民館	担当者	中村真理
事業名	中央公民館図書室事業				

事業費	財源内訳	年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
		決算額(千円)	680	725	670
	国・県支出金				
	その他				
	町債				
	一般財源	680	725	670	

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	<input type="checkbox"/> 内容
	図書、記録その他図書室資料を整理、保存して町民の要求に応え、公平な資料の提供によって教養、調査に資する。	図書室資料の収集、整備、相互貸借、町民サービス、巡回貸出の実施や図書等の購入を行う。

事業効果	年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
	項目(単位)			
年間開館日数		329日	328日	320日
図書購入費		535千円	579千円	525千円
年間貸出冊数		7,685冊	7,339冊	6,684冊
年間入場者数		2,205人	2,098人	2,053人

事業評価	評価項目		評価
	①必要性(町民が必要としていますか)	A 町民ニーズは高い      B 町民ニーズは低い(ない)	A
②妥当性(町が行うべきですか)	A 町が行うべきである      B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他	B(イ)	
③有効性(期待された効果は上がっていますか)	A 成果は上がっている      B 成果は上がっていない	A	
④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)	A 公平に配分されている      B 公平に配分されていない	A	
⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)	A コスト削減の余地はない      B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他	B(ウ)	
⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)	A (75%)      B (50%)      C (25%) 優先性が高い      低い	A	
評価の説明	図書室の利用者のニーズに対応した資料提供ができるように、蔵書のバランスを考慮し、一般図書・児童図書を収集整備した。また、貸出・予約・リクエストサービス等の充実に努め、図書室サービスの周知を図るため、「図書室だより」を発行している。		

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引き続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他( )	図書購入費を有効に活用し、町民のニーズに対応しながら継続して収集整備をしていく必要がある。 また、館内を利用しやすいように環境整備を行うとともに、町民に広報や公民館だより、図書室だよりを活用し、図書室をPRする必要がある。
----------	---	--





# 事業評価シート

事業細目番号	6(2)①	担当課	七戸中央公民館	担当者	中村真理
事業名	子どもの読書活動推進事業				

事業費	年度		平成29年度	平成30年度	令和元年度
	決算額(千円)			24	24
財源内訳	国・県支出金				
	その他				
	町債				
	一般財源			24	24

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	<input type="checkbox"/> 内容
	すべての子どもがあらゆる機会、場所において自由で公平に読書を行うことができるよう、読書環境づくりを推進する。	①おはなし会(春・夏・クリスマス・冬)開催と絵本の展示による啓発 ②朝の読み聞かせ(小学校・子ども園) ③学校巡回配本(小学校・子ども園) ④読み聞かせボランティアの育成

事業効果	年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
	項目(単位)			
児童図書貸出冊数		5,896 冊	5,798 冊	5,187 冊
おはなし会参加人数		311人	284人	264人
学校配本冊数		1,740 冊	1,800 冊	1,130 冊

事業評価	評価項目		評価
	①必要性(町民が必要としていますか)	A 町民ニーズは高い	B 町民ニーズは低い(ない)
②妥当性(町が行うべきですか)	A 町が行うべきである	B 町が行う必要性は薄れている(ない)	A
	(Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他		
③有効性(期待された効果は上がっていますか)	A 成果は上がっている	B 成果は上がっていない	A
④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)	A 公平に配分されている	B 公平に配分されていない	A
⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)	A コスト削減の余地はない	B コスト削減の余地はある	A
	(Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託	(エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他	
⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)	A (75%)	B (50%)	A
	優先性が高い	低い	
評価の説明	子どもが読書への関心を高めるよう、小学校の朝の読み聞かせ、子ども園での絵本の読み聞かせ、おはなし会等を開催し効果を上げている。 子ども読書活動推進のために、読み聞かせボランティアの連携と支援を行っている。		

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他( )
	子ども読書活動推進のため、本に親しめる環境整備と、読み聞かせボランティアの育成は、今後も継続して支援を行っていく必要がある。

# 事業評価シート

事業細目番号	6(2)②	担当課	七戸中央公民館	担当者	中村真理
事業名	ボランティア活動の育成支援事業				

事業費	年度		平成29年度	平成30年度	令和元年度
	決算額(千円)			0	0
財源内訳	国・県支出金				
	その他				
	町債				
	一般財源			0	0

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	<input type="checkbox"/> 内容
	町民の読書活動支援のため、ボランティア活動の促進を図ることを目的とする。	ボランティアの会員が、小学校での朝の読み聞かせ、こども園での絵本の読み聞かせ、各種団体等へのおはなし会を開催している。

事業効果	年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
	項目(単位)			
朝の読み聞かせ回数		26回	27回	20回
朝の読み聞かせ参加数		2,602人	2,745人	2,863人
絵本の読み聞かせ回数		2回	2回	3回
絵本の読み聞かせ参加数		118人	108人	153人

事業評価	評価項目		評価
	①必要性(町民が必要としていますか)	A 町民ニーズは高い	B 町民ニーズは低い(ない)
②妥当性(町が行うべきですか)	A 町が行うべきである	B 町が行う必要性は薄れている(ない)	A
	(Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他		
③有効性(期待された効果は上がっていますか)	A 成果は上がっている	B 成果は上がっていない	A
④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)	A 公平に配分されている	B 公平に配分されていない	A
⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)	A コスト削減の余地はない	B コスト削減の余地はある	A
	(Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託	(エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他	
⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)	A (75%)	B (50%)	A
	優先性が高い	低い	
評価の説明	会員が自主的に学習会を開いたり、各種研修会等に参加し、スキルアップに努めて読み聞かせ活動をしていることは、素晴らしいことで、成果が上がっている。		

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他( )	今後も研修会等の情報を提供し、会員のさらなるスキルアップのために支援していく必要がある。
----------	--	--

# 事業評価シート

事業細目番号	6 (2) ③	担当課	中央図書館	担当者	十枝内 知子
事業名	子どもの読書活動推進事業				

事業費	年度		平成29年度	平成30年度	令和元年度
	決算額(千円)			106	106
財源内訳	国・県支出金				
	その他				
	町債				
	一般財源			106	106

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	「七戸町子ども読書活動推進計画」に基づき、すべての子どもがあらゆる機会、場所において、自主的に読書を行うことができるよう、読書環境づくりを推進する。	<input type="checkbox"/> 内容	①おはなし会の開催や絵本の展示による啓発活動 ②7ヶ月児健診を利用したブックスタート事業 ③学校巡回配本(月1回/低・高学年別) ④県立図書館事業「子どもの読書活動推進のための図書セット貸出」事業を利用した巡回配本。(保育園・幼稚園対象:家庭での読み聞かせ用絵本) ⑤読み聞かせボランティアの育成
------	-----------------------------	--	-----------------------------	---

事業効果	年度		平成29年度	平成30年度	令和元年度
	項目(単位)				
おはなし会実績(回/人)			2回/40人	2回/28人	2回/40人
ブックスタート実績(人)			83人	71人	47人
学校配本実績(人/冊)			2,639人/6,009冊	2,665人/5,974冊	2,468人/5,724冊
図書セット巡回配本(ヶ所)			幼稚園・こども園・保育園 4ヶ所	こども園・保育園 3ヶ所	こども園・保育園 3ヶ所

事業評価	評価項目		評価
	①必要性(町民が必要としていますか)	A 町民ニーズは高い      B 町民ニーズは低い(ない)	
②妥当性(町が行うべきですか)	A 町が行うべきである      B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他		A
③有効性(期待された効果は上がっていますか)	A 成果は上がっている      B 成果は上がっていない		A
④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)	A 公平に配分されている      B 公平に配分されていない		A
⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)	A コスト削減の余地はない      B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他		A
⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)	A (75%)      B (50%)      C (25%) 優先性が高い      低い		A
評価の説明	子ども読書活動推進計画に基づき、おはなし会をはじめとした各種事業を実施し、子どもの読書への関心を高める活動を行っている。また、図書ボランティアの育成に関する支援も行っている。		

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他( )	「七戸町子ども読書活動推進計画」をもとに、今後も継続して取り組んでいく。また、ボランティアの育成については、新規会員の確保も含め、支援を行っていく必要がある。
----------	--	---

